

事務事業及び予算の執行実績

(令和6年度分「一部、令和7年度分を含む」)

静岡県立浜松特別支援学校

目 次

事務事業の概要・・・・・・・・・・・・・・・・	1
事務執行の根拠法令調・・・・・・・・・・	27
学校施設の概要・・・・・・・・・・	28
在籍生徒調・・・・・・・・・・	34
入学志願者及び入学者数調・・・・・・・・	38
卒業生の動向調(特別支援学校用)・・	39
生徒の状況・・・・・・・・・・	40
特別支援学校における生産物売払調・・	46
預金調・・・・・・・・・・	51
郵券等受払調・・・・・・・・・・	52
材料品受払調・・・・・・・・・・	53
委託料等歳出予算執行状況節別集計表	55
委託料に関する調・・・・・・・・・・	57
負担金支出調・・・・・・・・・・	69
建築工事調・・・・・・・・・・	71
公有財産調・・・・・・・・・・	75
借地借家等調・・・・・・・・・・	79
事務機器等債務負担行為又は長期継続契約に係る調	80
行政財産貸付・使用許可調・・・・・・・・	83
主要備品調・・・・・・・・・・	84

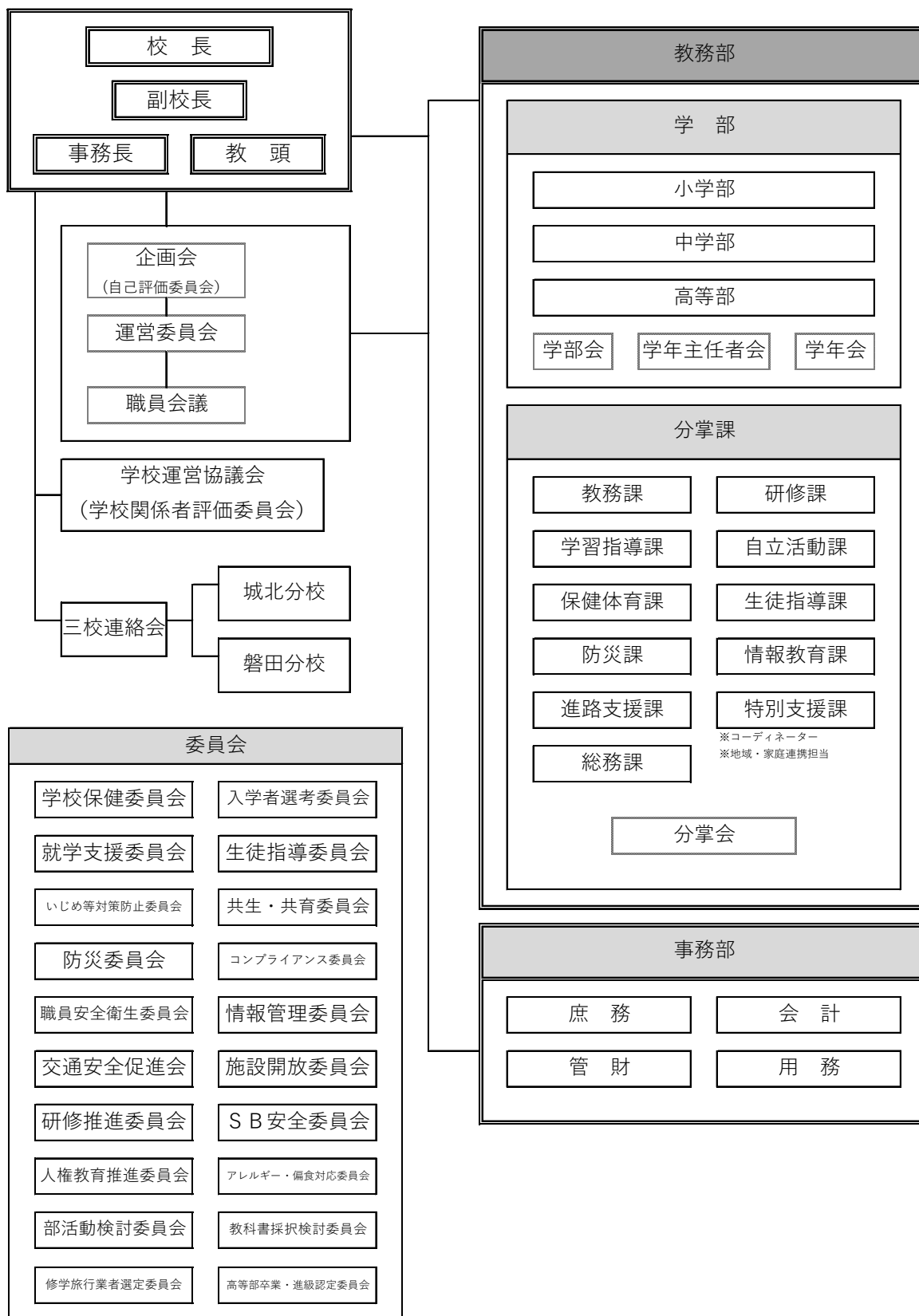
事務事業の概要（本校）

1 概 況

(1) 学校の沿革

昭和 52. 4. 1	新設養護学校設立準備委員会発令
昭和 52. 5. 1	用地取得及び造成工事委託 15,581.2㎡
昭和 52.12.12	静岡県立浜松養護学校の設置を県議会議決
昭和 53. 3.25	第一期工事竣工（鉄筋コンクリート造 3 階建 2,618.94㎡）
昭和 53. 4. 8	開校式・入学式（小学部10学級66人 中学部 4 学級14人）
昭和 54. 3.23	第二期工事竣工（鉄筋コンクリート造 3 階建 1,784.80㎡）
昭和 54. 4. 1	養護学校教育の義務化・訪問教育実施
昭和 56. 4. 1	高等部開設（1 学年10人）
昭和 57. 3.11	第三期工事竣工（高等部鉄筋コンクリート造3階建 771.06㎡） 平屋建（体育館鉄骨造平屋建 500.25㎡） 合併処理槽竣工
昭和 57. 8.30	プール完成（F R P 製 8 × 20m 4 × 8 m）
昭和 58. 2.15	第四期工事竣工（鉄筋コンクリート造 3 階建 1,527.06 ㎡）
昭和 58.11.11	校舎施設等落成記念式典
昭和 59. 3. 9	高等部第 1 回卒業式
昭和 62.10.21	木工実習室竣工（鉄骨造平屋建147㎡・車庫43.39㎡・渡り廊下 39.94㎡）
平成 元. 3.25	高等部生徒昇降口竣工（鉄骨造平屋建16.2㎡）
平成 2. 8.31	小・中学部昇降口アーケード竣工（171.7㎡）
平成 7. 8.31	防球ネット設置工事竣工（8 × 47.5m）
平成 9.10.31	耐震補強工事（本館）完成
平成 10. 2. 7	創立20周年記念式典（フェスタ浜養同時開催）
平成 10. 8.31	耐震補強（南館西側）及び内外装の改修工事完成
平成 10.12.18	食堂棟改修工事完成
平成 11. 3.31	南館（東側）・食堂棟渡り廊下・グラウンド・体育館改修工事等完成
平成 15. 4. 1	重複障害児学級 1 クラスが高等部に認可
平成 18. 6.30	仮設校舎（8 教室）完成
平成 20. 2.22	創立30周年記念式典
平成 20. 4. 1	静岡県立学校設置条例の一部改正に伴う校名変更
平成 24.10.29	津波避難階段完成
平成 25. 3.21	災害用仮設トイレ完成
平成 30.11.24	創立40周年記念式典
令和 元. 6. 5	全普通教室エアコン設置
令和 2. 9. 8	全特別教室エアコン設置
令和 6. 1. 1	浜松市行政区再編に伴う区名変更 浜松市中央区江之島町

(2) 組織図



2 目指す学校像

(令和6年度)

(1) 教育目標

共生社会の中で「自分らしく力強く生きる人」を育てる

(2) 目標具現化の柱

- ア <授 業> 個別最適な学びと協働的な学びを実現する学校
- イ <安 全> 命を守り、人権を尊重した安全で安心な学校
- ウ <協 働> 家庭、地域、関係機関と協働して支援する学校
- エ <チーム> 全教職員が主体的に学校づくりに参画する学校

3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等

令和6年度の取組目標への評価及び成果と課題

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
児童生徒が夢中になれる学校生活の創造	年間計画の作成にあたって、時期毎、取り組むべきことを明確化・焦点化している。	学部や学年が時期毎に取り組むべきことを明確化・焦点化し、年間計画を作成し、取り組んだ。	A	最良のテーマを設定することで、学習内容が明確化・焦点化され、学校生活全体で児童生徒が夢中になって学びを深めることができた。今後も、主体的に考え、行動する姿を目指し、年間計画の作成や授業づくりを継続していく。
協働的な学びの充実	集団で取り組む(友だちと取り組む)良さを生かした授業を実施している。	集団で取り組む良さを生かした授業を実施した。	A	児童生徒が協働的な学びの中で満足感や達成感をもつ授業を展開することができた。今後、グルーピングや教材の工夫、ICT機器の活用を促進し、集団で取り組む良さを生かした授業を展開していく。
個に応じた指導の充実	願う姿を描き個別の教育支援計画の目標を設定し、これを基に個別の指導計画を立てている。	願う姿から、個別の支援計画の目標を設定し、これを基に個別の指導計画を立てた。	A	手引きや評価の仕方を個別の日の前に学部単位で周知した。管理職回覧での指導を受けて、児童生徒一人ひとりに向き合った立案、見取りをした。目標の質の向上を目指して願う姿や流れ図を活用し、好例を基に手引き改定をしていく。
自立活動の充実	流れ図から指導すべき目標を導き出し、時間の指導・教育活動全体を通じた指導を使い、効果	流れ図や学習会、実践例紹介等を目標設定、指導の参考にして実践できた。	A	自立活動や流れ図学習会、実践例の紹介を行い、自立活動の基礎を深め、目標設定や指導に生かすことができた。流れ図の有効活用については課題がある。今後は書式の見直しと学年、学

	的に指導を行っている。			級ごとに流れ図の考え方で話し合っ て目標や指導内容を検討する研修の充実を図る。
生活単元学習、 作業学習の充実	最良のテーマを基に、成就したいことは何かを明確にした授業づくりをしている。	最良のテーマを基に、児童生徒が単元ごとに何を成就したいと思うか事前に話し合い明確にすることができた。	A	学部ごとに話し合いながら授業づくりを検討する様式を使用した。また、研修の日、学年会などを単元づくりの検討日として計画的に活用した。事前に単元について話し合うことで児童生徒の自然な気持ちの流れに即した夢中になることが明確な授業づくりを行うことができた。 今後も児童生徒が主体的に活動する授業づくりの研修に取り組んでいきたい。
国語・算数/数学の充実	実態から学習指導要領の領域・段階を捉えて年間指導計画を立て、授業づくりをしている。	学習指導要領の領域・段階を捉えて年間指導計画を基に授業実践ができた。	A	児童生徒の実態把握をし、学習指導要領の領域・段階を捉えた授業実践をした。また授業づくりの参考に「太田ステージ評価」の研修を実施した。今後は、児童生徒の実態把握が的確にできるように、検査法等の研修の充実を図っていく。
ICT の活用の促進	タブレット端末やクラウドを活用し「個別最適な学び」「協働的な学び」を目指した授業づくりをしている。	複数人対応の授業では利用しているが個別対応形式の授業での利用が少ない。	B	ICT を利用しての授業実践に教員の利用状況の偏りが見られる。ICT 利用研修を受けられる環境を作って教員一人一人の実践ハードルを下げる。
図工・美術等、 表現活動の充実	個性を生かした表現活動ができるよう、個々の実態に合わせた素材や補助具を用意している。	個々の実態に合わせた教材を用意し、個性を生かした表現活動ができた。	A	作品展において各学年2点以上の展示発表をしたり実態に合った楽器や教材を用意したりすることで、個性を生かした表現活動ができた。図工・美術や音楽の授業作りに専門的なアドバイスが得られる機会を作るようにしたい。
道徳指導の充実	道徳の指導の観点から抑えるべき内容を確認して、各	道徳の指導の観点、内容を確認し、各教科、合わせた指導等の	A	各部で道徳教育のミニ学習会を実施した。生活単元学習の実践紹介では、道徳教育の観点や内容が含まれた

	教科や合わせた指導等を行っている。	授業を行うことができた。		児童の様子が紹介され、合わせた指導における道德教育の考え方が分かりやすく、授業づくりの参考になった。今後も引き続き、ミニ学習会を計画していく。
命を守る意識と行動力の向上	児童生徒の命を守るために、指示が無くても取るべき行動を自分で判断することができる。	避難訓練では、放送の指示が無くても周りの児童生徒を速やかに避難場所へ誘導することができた。	A	年間5回の避難訓練を、計画通りに実施することができた。避難後の点呼では、不明者の集計を優先する形で行った。避難中に職員が互いに声を掛け合い、スムーズで安全な移動を習熟させていきたい。
安全・快適な環境づくり	施設を効果的に活用するために、廃棄・片付け・清掃に自ら気付き取り組んでいる。	校内の不用品廃棄がほぼ完了し、校内の物品の片付け、清掃に取り組むことができた。	A	不用品を廃棄するとともに、他の場所で使用できないか考え、棚や物品を適切な場所に移動することで、施設を効果的に活用することにつながった。
事故防止の強化	けがの予防、不慮の事故を無くすよう、児童生徒の実態に応じた配慮を行っている。	児童生徒の実態に応じて、事故防止に対する配慮ができた。	A	事故を防止するための研修や実践内容を共有したことで、大きな事故の防止につながった。ヒヤリハットがあったときには、引き続き対応方法について検討・改善・共有し事故を防止していきたい。
人権を守る意識と行動力の向上	学校が児童・生徒の居場所(安心する場)となるよう、人権を意識した言動を心掛けている。	児童生徒への言葉遣いや名前の呼び方など意識して気を付けることができた。	A	人権アンケートや人権向上三則などを通して、意識の向上に努めた。名前の「さん」付けの徹底や否定的な言葉掛けをしないことの周知など引き続き呼び掛けを行っていきたい。
発信力の向上	学校をより理解してもらえよう、伝え方、発信の仕方を工夫している。	学校をより理解してもらえよう様々な場面で伝え方、発信の仕方を工夫した。	A	保護者へは、参観会や行事などの学習の目的や内容、学習の様子などを学年だよりや学部だよりで事前事後に伝え、教育活動への理解を促す工夫をした。外部に向けては、インスタグラムやホームページ、新聞掲載などで本校の取組や児童生徒の学習について発信し、本校への理解を促した。

江之島地区三校 (浜特・江南中・江之高)の 協働体制の強化	三校による取 組みとして 何ができるか を考え取組み 始めた。	三校生徒会によ る交流会を実施 し、生徒会活動 の情報交換や新 分校の校名につ いて意見を交わ した。	B	三校連携協働委員会の体制 等について、担当者間で検 討し、三校生徒会の交流が 実現した。生徒会のつなが りが持続するよう三校の調 整を行い、三校が協働で取 り組む活動を引き続き検討 していく。
学校応援隊の活 用の推進	地域を知る、地 域と触れ合う、 地域の役に立 つ等の活動に 取り組んでいる。	小学部は探検学 習、中学部は地 域で働く人との 触れ合い学習、 高等部は地域清 掃活動等、段階 に応じた学習に 取り組んだ。	A	学校周辺の地域資源を学習 に活用しようとする意識が 高まり、地域学習が増え た。学校周辺の地域資源に は限りがあるため、地域の 範囲を広げ、本校の理解啓 発を進めることを通して、 応援隊をさらに増やしてい く。
進路指導の充実	児 童 生 徒 の 「 夢 」 を 育 み、本人・保 護者の「願い」 を大切にした 進路指導をし ている。	進路便りや外部 での進路関連の イベント案内の 情報提供や個別 の相談等を行っ た。	A	様々な方法で学校から情報 提供を行い、概ねよい評価 を得た。小学部段階では、 保護者・教員、双方に将来 のイメージがなかなか持て ないという声も聞かれたた め、将来の姿を具体的にイ メージできるような取組み も検討していきたい。
センター的機能 の充実	高等学校のニ ーズに対応す るため、教育 相談、研修支 援等への依頼 に応じしてい る。	学校ホームペー ジに「教育相 談」のページを 作成した。 教育相談だより を 2 回 発 行 し た。 依頼件数 0 件	B	ホームページやおたよりで 啓発を行ったが、連携が不 十分であった。今後は連携 高等学校を直接訪問するな どして高校のコーディネ ーターとの繋がりを作って相 談しやすい体制を築き、セ ンター的機能としてどのよ うなことが必要とされてい るのかを把握し支援に繋げ たい。
コミュニケーション 力の向上	働きやすいチ ームとなるよ う、相手の立場 に立った伝え 方、受け止め方 を心掛けている。	相手の立場に立 った伝え方、受 け止め方を心掛 けた。しかし、 心のゆとりがな いときには、相 手の立場に立っ て考えることが できない状況も あった。	A	それぞれの教員がお互いの 仕事の状況の理解に努め、 協力し合う意識をもつこと ができた。自分と相手の感 じ方やもっている背景は違 うことを常に意識しながら、 どんなときもお互いを 尊重した対応を心掛け、働 きやすいチーム作りを続け る。

浜松特支教職員としての自覚の向上	老朽化・狭隘化・津波の三大リスクに対し、すべきことを考え、実践している。	総務課、防災課、学習指導課を中心に学校全体で三大リスクに対し、すべきことを実践した。	A	教材教具やファイル等の定位置の明確化、不用品の廃棄、避難訓練実施・反省・改善など、常に三大リスクの低減に向け取り組んだ。今後も一人一人が危機管理能力を高め、安全安心に生活できる環境づくりを行う。
働き方改革の推進	特別な場合は除き、週に複数回、空き時間を確保している。	週に複数回、空き時間を確保するよう努めた。	B	年度初めや児童生徒の状況によっては、在校時に空き時間をつくれなことも多かったが、学習計画段階で教員配置を明確にしたり、グルーピングを工夫したりすることで空き時間を確保するように努めた。個人の仕事を進める時間を計画的に確保できるようさらに工夫していく。
	時間外勤務45H/月以上が連続する職員はいない。	45H/月が連続する職員はいなかった。	A	週1回の定時退庁日に加え、今年度から完全退庁時刻を設定し、時間を意識することができた。業務の重なりや偏りにより時間外勤務が多くなる職員が複数いたため、今後さらに業務の調整、見直しを行う。
指導効果を高める予算の執行	必要物品の計画的な購入、不具合箇所への迅速な対応、不要物品の積極的な廃棄等を行っている。	物品購入、廃棄処理等については計画どおり執行をした。点検結果及び要望に応じて不具合箇所への対応をした。	B	計画になかったものについても柔軟に対応した。また分校の学級増対応にも遅延なく執行をした。不用品等の処分については今後も継続していく。修繕費の予算不足は随時要求をしていく。
倫理観の向上	不祥事0件	処分対象となる不祥事は0件だった。発生した交通事故は被害又は双方不注意で過失割合の小さい事故だった。	A	学年によるグループワークを年4回設定し、不祥事を自分事として考える機会とした。職員会議でも継続して不祥事根絶の呼び掛けを行った。電子掲示板や事務室前掲示板を活用し、毎月交通安全標語を掲出して注意を呼び掛けた。事故発生の際には状況を知らせて注意喚起を行った。今後もこれらの取組を継続する。

4 監査対象期間における特色ある取組

年 度	取 組 概 要	成果及び課題
令和 6 年度	学校周辺の地域資源を学習に活用するとともに、共生社会の一員としての認識を広げるために、プロジェクトリーダーを含めたコミュニティースクールディレクター（CS担当）という仕組みを設けて取り組んだ。	地域資源を活用した学習を展開する中で、協力してくれる地域の施設や働く方々、周辺の学校などが増えた。前年度から引き続き交流し、関係が深まっている。新たに浜松江之島高校、江南中学校、本校高等部の生徒会の交流もできた。

5 教職員について

(1) 令和 6 年度異動状況（本校）

区分		本務職員											
		校長	副校長	教頭	事務長	教諭	養護教諭	栄養教諭	主査	主任	主事	技能長	小計
本校	転出者		1	1		25	1		2				30
	退職者					3							3
	転入者		1	1		26	1		2				31
	新任者					8							8
	再任用者												0
	差引増減	0	0	0	0	△6	0	0	0	0	0	0	△6

区分		臨時職員				会計年度任用職員				合 計
		任期付教諭	臨時教諭	臨時栄養教諭	任期付短時間勤務教職員	非常勤嘱託員	非常勤労務職員	スクールカウンセラー	就労促進専門員	
本校	転出者	2	2							4
	退職者	1	2		0	1	1		1	6
	転入者	1	0							1
	新任者	1	3		0	1	1		1	7
	再任用者									0
	差引増減	△1	△1	0	0	0	0	0	0	△2

(2) 現員数

(令和7年4月1日現在)

区分	本務職員										
	性別	校長	副校長	教頭	事務長	教諭	養護教諭	栄養教諭	主査	技能長	小計
本校	男	1			1	51				1	54
	女		1	1		67	2	1	3		75
	計	1	1	1	1	118	2	1	3	1	129

区分	臨時職員					会計年度任用職員			学校医	小計	合計
	性別	任期付教諭	臨時教諭	臨時栄養教諭	任期付短時間勤務教職員	非常勤嘱託員	非常勤労務職員	スクールカウンセラー			
本校	男	3	6			2	1		8	20	74
	女	4	5	1	1	2	4	1	0	18	93
	計	7	11	1	1	4	5	1	8	38	167

(3) 健康管理について

健康管理の徹底

ア 定期健康診断の結果、要精密検査、再検査の職員に対し、確実に受診するように指導した。

イ 職場の健康づくり支援事業を活用し、「レジリエンス 回復力を鍛える」、「発酵食のある暮らし」、「時間整理の整理術」、「ハンドリフレ 色と性格で発見！手の癒し」の4講座を開催した。事前に講座希望調査をし、自分の興味関心のある内容を選べるようにした。講座を受講したことで、教職員の心身の健康に関する視野が広がり、自分の健康に向き合うきっかけを作ることができた。

ウ 校内委員による職員安全衛生委員会を毎月実施し、教職員の健康状態の把握に努めたり、職場環境について協議したりし、労働環境の改善に努めた。

(4) 教職員の研修について

(令和6年度)

目 的	研修内容及び成果	課 題
合わせた指導の授業力向上	児童・生徒のその時期における「最良のテーマ」を基に単元の終わりまでに成就したいこと、解決したいと思うことを児童生徒の思考に即して想定する単元の検討をした。 授業づくりの日や研修日などを活用し、検討する日を計画的に設定した。加えて検討する観点を明確にした様式を使用した。事前に話し合い単元検討することが定着した。3年間継続して取り組んだことで、単元づくりの考え方が浸透し、児童生徒が主体的に活動することが増えた。	単元の事前検討が充実してきたが、単元を振り返り、次の単元につなげていくことに課題が残った。また、児童生徒の「できた」の見取りが技術面に偏りがちで見取りが難しい内面の捉えが十分でなかった。

6 防災対策について

(1) 地震対策

- ア 地震が起きた際のさまざまな状況に対応できるよう、地震・津波を想定した避難訓練を年5回実施し、具体的な避難のしかたを確認した。うち1回は非通知による訓練とし、それまでの訓練を踏まえ、指示がなくても避難ができるかを確認する機会とした。
- イ 浜松地区特別支援学校間ネットワーク無線を活用し、下校スクールバス運行中の災害発生を想定した訓練を行った。本校とスクールバスの無線が繋がらない区間で、他校の無線を経由してスクールバスと連絡を取る方法を確認した。他校の無線とも繋がらない区間が新たに分かったため、その際はバス会社所有の通信機器で連絡を取り合うこととした。
- ウ 浜松市委託業務で、消費期限が2030年までの非常食および備蓄水の入れ替えを行った。
- エ 南海トラフ地震臨時情報の発令を受けて、保護者および職員のCOCOO利用訓練を行った。職員の回答は100%で実施できたが、保護者からの回答は70%程度となった。

(2) 防災訓練

- ア さまざまな災害の状況に対応できるよう、年間6回の避難訓練を実施し、災害が起きたときの具体的な避難の仕方を児童・生徒、職員に周知した。
- イ 学校防災計画に従い、火災予防に万全の注意を払って、非常口付近には絶対に物を置かないようにした。日ごろより、児童生徒の安全と校舎その他施設設備の保全に努めている。

年度	月 日	訓 練	訓練内容	参加者数
6	～4.19	地震・津波	教室からの避難経路の確認（学年、学級）	児童 生徒 約290人
	4.24	地震・津波	地震発生時の一次避難	
	5.17	地震・津波	地震発生時の一次避難と二次避難	
	9.27	火災	火災発生時の運動場への避難	
	10.24	地震・津波	地震発生時の一次避難と二次避難	職員 約130人
	12.6	地震・津波	地震発生時の一次避難と二次避難（非通知）	

7 学校開放について

地域の社会活動、文化活動、スポーツ活動その他の生涯学習活動の振興のため施設等の開放を実施した。

（令和5年度）

開放施設	期間 日数	参加利用 者数	講 座 ・ 教 室 名	受講料	利用者負担金(電気料金)
体育館	3日	54人	A Lus do sol フットサル	—	—
運動場	17日	918人	白脇サッカースポーツ少年団 練習	—	—
	5日	105人	浜松フューチャーズ野球少年団 練習	—	—
	4日	36人	静岡県パラ陸上競技協会 練習	—	—
	8日	160人	浜松FDフライングディスク協会	—	—
	15日	105人	静岡県警察	—	—
	4日	40人	アレスグード	—	—
計	56日	1,418人			

(令和 6 年度)

(令和 7 年 2 月 28 日現在)

開放施設	期間 日数	参加利 用者数	講 座 ・ 教 室 名	受講料	利用者負 担金(電 気料金)
体育館	1 日	6人	A Lus do sol フットサル	—	—
運動場	12 日	779 人	白脇サッカースポーツ少年団 練習	—	—
	4 日	70人	静岡県パラ陸上競技協会 練習	—	—
	7 日	159 人	浜松 F D フライングディスク協会	—	—
	5 日	40 人	静岡県警察	—	—
計	29 日	1,054 人			

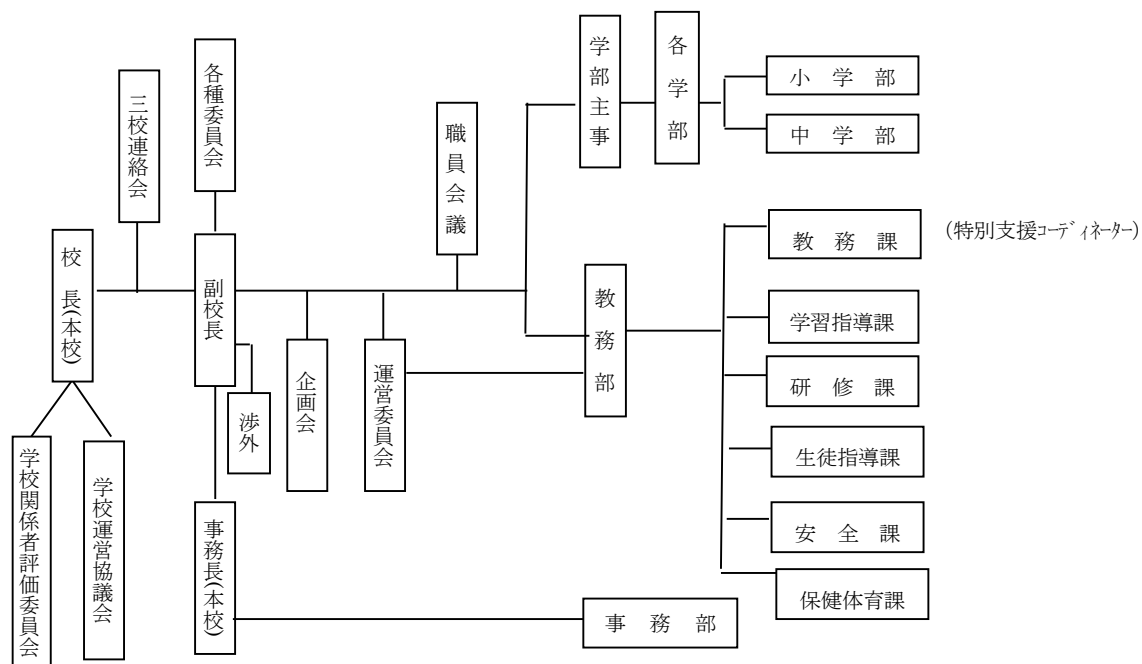
事務事業の概要（磐田分校）

1 概 況

(1) 学校の沿革

- 昭和 30. 4. 20 浜名寮内特殊学級を開設し義務教育を開始
 昭和 36. 7. 2 磐田学園内特殊学級開設
 昭和 42. 2. 1 学習指導棟(3教室)増設
 昭和 46. 9. 28 学習指導棟(2教室)増設
 昭和 54. 4. 1 養護学校義務制の発足に伴い、浜松養護学校磐田分校開設
 昭和 56. 3. 2 磐田分校校舎完成（鉄筋コンクリート造2階建 1,571.02 m²）
 昭和 63. 5. 2 創立10周年記念式典
 平成 7. 5. 31 アスレチック完成
 平成 10. 5. 1 創立20周年記念式典
 平成 20. 4. 1 静岡県立学校設置条例の一部改正に伴う校名変更
 平成 20. 5. 30 創立30周年記念式典
 平成 30.10.19 創立40周年記念式典
 平成 31. 3. 14 磐田学園新築工事に伴うアスレチック撤去
 令和 元. 7. 2 全普通教室エアコン設置
 令和 2. 9. 11 全特別教室エアコン設置
 令和 5.11.24 校舎屋上防水修繕他工事（中規模改修工事）

(2) 組織図



2 目指す学校像

本分校は、知的障害児施設「静岡県立磐田学園」に併設された知的障害特別支援学校である。在籍児童生徒がすべて施設に入所していることから、本分校では関係諸機関との連携の下、児童生徒の心のケアに重点を置きながら、学校教育目標の実現に向け以下のような学校を目指す。

(令和6年度)

共生社会の中で「自分らしく力強く生きる人」を育てる

- (1) 個別最適な学びと協働的な学びを実現する学校
- (2) 命を守り、人権を尊重した安全で安心な学校
- (3) 磐田学園、児童相談所、家庭及び地域等と協働して支援する学校
- (4) 全教職員が主体的に学校づくりに参画する学校

3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等

(1) 令和6年度の取組目標への評価及び成果と課題

(A:十分目標を達成することができた B:おおむね目標を達成することができた C:あまり目標を達成することができなかった)

ア<授業> 個別最適な学びと協働的な学びを実現する学校

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	児童生徒が夢中になれる学校生活づくり	時期毎、取り組むべきことを明確化・焦点化し、指導を行っている。	AB 評価 100% ・小学部は学期ごと、中学部は月ごとにテーマを設定し指導を行った。どちらの学部でも児童生徒の夢中になって取り組む姿を多く見られた。	A	小学部は職員が提案したものととは別で、校外学習など活動そのものが児童のテーマとなり、中学部では「チャレンジ」「まとまる」など目標がテーマとなった。児童生徒の理解に合わせたテーマ設定が有効であった。
イ	個別最適な学びと協働的な学びの充実	個別の教育支援計画や指導計画の目標から課題を設定し、願う姿をイメージした授業をつくらしている。	AB 評価 95.2% ・学級担任だけではなく、学習グループの教員間で願う姿の共有ができていた。	A	単元ごとに個別目標の確認をすることで、各々の教員の想定する「願う姿」のずれの解消がなされた。今後も新単元に向けて個の目標を確認することを、システムとして行いたい。
ウ		集団で取り組む(友だちと取り組む)良さを生かした授業を実施している。	AB 評価 100% ・グルーピングの工夫、検討を行うことが有効であった。 ・子どもの意見に応えるために余裕も持った教材研究が必要。	A	集団の学習を設定する際には、グルーピング、活動内容などの事前打ち合わせを重視する。また、集団での活動が難しい児童生徒について、必ず支援や目標の共有を行いたい。
エ	合わせた指導(生活単元学習や作業学習)の充実	成就したいことは何かを明確にし、最良のテーマを基に夢中になる授業づくりをしている。	AB 評価 95.2% ・「成就したいことは何かを明確にし、最良のテーマを基に夢中になる授業づくり」というテーマでの校内研修を行った。その時期ごとのテーマに向けて夢中になって活動する児童生徒の姿が見られ	A	研修のテーマとして「成就したいことは何か」「最良のテーマ」という言葉が教職員に浸透した。同じ視点をもって授業づくりをすることで児童生徒の夢中になって取り組む姿につながった。

			た。		
オ	自立活動の充実	児童生徒一人ひとりの目標を導き出し、指導場面を明確にして指導を行っている。	AB 評価 85.7% ・「施設入所児童生徒に対する学習支援」や自立活動目標の立て方についての学習会を実施した。 ・学習グループでの目標、支援、あらわれの共有が有効に行えた。	B	職員の記述の中では「共有が有効」という言葉が複数挙げられている。実際の指導についてチームで行っているが、目標や指導場面の設定や根拠について、教職員個々の力をつけていきたい。
カ	保健体育指導の充実	計画的な保健教育と体力の向上を目指した指導を行っている。	AB 評価 95.3% ・計画的な、体育・保健の学習、毎朝のトレーニングの設定、グルーピングの工夫、講師としての外部人材の活用など、有効であった。	A	有効な取組がなされていた。特に毎日の朝トレーニング(中学部)、外部講師を活用した球技への取組が体力の向上やスポーツへの興味につながった。
キ	ICT の活用の促進	タブレット端末等を利用し「個別最適な学び」「協働的な学び」を目指した授業づくりをしている。	AB 評価 71.4% ・より良い活用に向けて職員の学習会を行った。 ・前期評価に比べ「できた」と答える職員が増えているが、教職員自身がもっと学ばべき、との声もあった。	C	授業では活用されている。検索だけでなく、表現や対話への活用を進めたい。「他の職員の活用法を知りたい」との意見もあったため、研修方法を工夫していく。
ク	本に親しむ児童生徒の育成	児童生徒が本に親しむ活動を定期的に設定し実践している。	AB 評価 90.5% ・読み聞かせや図書週間、図書委員会などの取組を行った。それぞれの取組が児童生徒が本に親しむ場面作りにつながった。	A	新しい本の購入や、購入図書のリクエスト募集、児童生徒・職員が書いた本の紹介文の掲示などが「本に興味をもって親しむ」ことにつながった。

イ＜安全＞ 命を守り、人権を尊重した安全で安心な学校

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	命を守る意識と行動力の向上	児童生徒が自分の命を守るために取るべき行動について分かって動ける取組を実践している。	AB 評価 100% ・火災・地震などの災害時、校外を歩く時などどうすべきかを理解して行動できている。児童生徒の行動範囲の狭さから、訓練の域を出ない。	A	起震車や煙体験、校外での交通安全教室など体験的な学習が有効であった。 今後も放水訓練や一人での校外歩行など、より体験を重ねることで児童生徒の力としていきたい。
イ	事故防止の強化	けがの予防、不慮の事故を無くすよう、環境設定や児童生徒の実態に応じた配慮を行っている。	AB 評価 100% ・環境設定など最大限の配慮により大きなけがは防げている。 ・5月に生徒の校外逃走のための捜索があった。	A	突発的な行動や暴力が時折あったが、大きなけがにはつながらなかった。生徒行方不明の際には、警察への連絡のタイミングが遅かった。捜索マニュアルを見直し改正を行っている。
ウ	人権を守る意識と行動力の向上	学校が児童生徒の居場所（安心できる場所）となるよう、人権を意識し	AB 評価 100% ・学部それぞれに実態に合った方法での指導を行っている。 ・児童生徒同士の諍いはあるが、担任等の教員がよりどころ	A	人権週間での呼びかけなどで、教師も生徒も自身の言動を律する姿が見られている。 磐田分校が児童生徒の大切な居

		た言動をとっている。	となり安心して過ごせる場所となっている。		場所であることを常に意識していきたい。
--	--	------------	----------------------	--	---------------------

ウ<協働> 磐田学園、関係機関、家庭及び地域と協働して支援する学校

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	磐田学園、児童相談所等との関係機関との連携強化	児童生徒の安心できる生活構築や進路指導等について、連携を図りながら進めている。	AB 評価 90.5% ・会議の持ち方の工夫も行いながら効率よく情報の共有を行えた。 ・意見の交換も行ったが児童生徒の安心につなげるには更なる連携が必要となる。	A	各々の役割を理解し合いチームづくりを行っていく。 移行支援会議に児童相談所が参加するようになったことが、情報共有と会議の効率化に有効であった。
イ	発信力の向上	学校をより理解してもらえるよう、伝え方、発信の仕方や方法を工夫している。	AB 評価 95.2% 教職員の中で地域発信の意義・方法・対象について整理し、確認を行った。主に学園への発信について課題が残っている。	A	地域への発信については、児童生徒の学習活動や展覧会出展、HPの更新などで効果的に行えた。教育活動の説明、学校が目指している姿などについてさらに積極的に併設する磐田学園に向けて発信していくことが課題となっている。
ウ	地域とのつながりの充実	児童生徒が交流活動を通じて人との関わりを深めることができる取組を実践している。	AB 評価 100% 老人ホーム訪問、地域学校との交流、地域老人会等との交流が、相手を思いやり、互いの良さを知ったりする経験につながっている。ブルーレヴズ、浜松アレグミーナなどのスポーツチームやはま寿司、地域の商店等との交流では体験的な学びの場を持つことができた。	A	複数の場面・目的での交流を行うことは、児童生徒の関わりの方の向上につながった。人「自分から」「相手を思いやり」「楽しさを共有して」など、関わりを深めることができた。今後もこのような経験を重ねていく。

エ<チーム> 全教職員が主体的に学校づくりに参画する学校

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	コミュニケーション力の向上	働きやすいチームとなるよう、相手の立場に立った伝え方、受け止め方を心掛けている。	AB 評価 95.2% 職員研修として「伝え方講座」を行った。伝え方に難しさを感じる職員もいるが、学部を単位としたチーム作りができている。少数ではあるが「チームとはなれない」という言葉もあった。	A	「相手の意見を尊重して行動できた」「学部を単位としたチームワークの良さ」などが意見として挙がっている。 教諭、養護教諭、事務職員など役職が違う職員同士もワンチームになれるよう情報提供の方法、話し合いの持ち方などの工夫をしていく。

イ	働き方改革の推進	特別な場合は除き、週に複数回、空き時間を確保している。	学年によって空き時間に偏りがないよう、部主事が中心となって調整できている。一日一回は空き時間を確保できた。	A	育休、特休などで学部の人員が少なくなっている時期もあった。臨時講師の確保が難しく、学部運営の工夫が必要であった。
ウ		時間外勤務 45 H / 月以上が連続する職員はいない。	目標については達成している。	A	比較的退勤時間が早い学校であるが、時期によって一部の職員の業務量が多くなることはあった。偏りを減らす努力と偏りに早めに気づける努力を行う。
エ	倫理観の向上	教育公務員としての自覚をもち、実践している。 不祥事 0	AB 評価 100% 長期休みの前後に呼びかけや話し合いを行った。 交通事故 2 件 (内 1 件は軽微)、その他の不祥事はない。	A	大きな事故等はなかったが、事故事例紹介などでの定期的呼びかけは引き続き行っていく。

4 監査対象期間における特色ある取組

年 度	取 組 概 要	成 果 及 び 課 題
令和 6 年度	・本校の児童生徒は、全員が併置している磐田学園に入所している。 ・磐田学園とは、定期的に児童生徒の目標や課題を確認し合い、児童生徒の指導にあたっている。また、磐田学園とともに児童相談所など関係機関とも関係を築き、児童生徒への支援や卒業後の進路についても連携を図っている。 ・虐待等の経験からトラウマを抱える児童生徒の理解に向けて学習会や研修を重ね、校内でのチーム対応、学園との親密な連携、明確なルール作り、支援方法の統一などの努力を行っている。	・磐田学園との日々の情報交換を丁寧に行い、分校での行動が学園での安定した生活につながるようにした。 ・合同ケース会(年 3 回)、移行支援会議(小 5, 6、中 2, 3)や、必要に応じて個別のケース会議を行った。分校としては、現在の生活の充実だけでなく児童生徒一人一人の夢の実現を踏まえた支援や進路選択を提案し続けている。児童相談所や学園職員ともその視点を共有できることが増えた。 ・児童生徒が言葉で伝えられることが多くなり、校内での暴力や暴言、逸脱の件数が年度末には大きく減っている。 ・年度末の安定が次年度や別の場にもつながっていくための、児童生徒自身の心の成長に向けて今後も支援、指導を行っていく。 ・現在の生活の安定だけでなく、児童生徒が自分の持っている力を発揮できる学習の場につなげていけるよう、関係機関との連携を深め適切な就学指導を行っていきたい。

5 教職員について

(1) 令和6年度異動状況（磐田分校）

区 分	本務職員							臨時職員		会計年度任用職員	合 計
	副校長	教 頭	教 諭	養護教諭	主 任	主 事	小 計	任期付教諭	臨時教諭	非常勤嘱託員	
磐田分校	転出者		2				2	1			3
	退職者		1				1				1
	転入者		2				2				2
	新任者								1		1
	再任用者										0
	差引増減		△1				△1	△1	1		△1

(2) 現員数

（令和7年4月1日現在）

区 分	種 別	本務職員					臨時職員		会計年度任用職員	学校医	小 計	合 計
		副校長	教諭	養護教諭	主事	小計	任期付教諭	臨時教諭	非常勤労務職員			
磐田分校	男		7		1	8				6	6	14
	女	1	11	1		13	1	2	1	1	5	18
	計	1	18	1	1	21	1	2	1	7	11	32

(3) 健康管理について

ア 健康管理の徹底

- (ア) 定期健康診断・生活習慣病検診の受診の徹底を図り、疾病の早期発見に努めた。再検査等が必要な者には早めに受診することを働きかけた。
- (イ) 職員安全衛生委員会を毎月開催し、学校職員の労働環境について話し合ったり、校内の巡視を行ったりして労働環境の改善に取り組んだ。また、健康管理医から定期健康診断等の結果について分析や助言をいただき職員の健康状態把握に努めた。
- (ウ) ストレスチェックを実施して、自己のストレス度管理の促進を図った。

(4) 教職員の研修について

(令和6年度)

目 的	研修内容及び成果	課 題
児童生徒が、夢中になって活動に取り組むための授業作りを行う。	・各教科等を合わせた指導を窓口として研修の仮説を立てて取り組んだ。助言者を招聘した授業研究を2回行い、「実践」から得られた「評価」を、次の「計画」に生かすというサイクルを意識的に行うことで、研修を深めることができた。 ・小学部では「夢中になる姿」の具現化とそれに向けての支援の整理、中学部では個の目標達成に向けての「できる状況作り」を軸に話し合いを進めることで、児童生徒が夢中になって活動に取り組む姿を引き出すことができた。	・書き物の負担感の少ない研修取組の工夫 ・児童生徒の内面の変化の見取り方法 ・非認知能力の育成と評価方法

6 防災対策について

(1) 地震等の対策

ア 災害時における児童生徒の生命等の安全を守るため、速やかに併設施設(磐田学園)との連携を行う。それぞれの役割の明確化を行い、合同の自主防災組織とは別に、「磐田分校危機管理マニュアル」を作成し直した。災害発生の際には安全に引き渡しを行うこと、その後の学校再開をより早く行うことを分校の役割としている。

イ 災害の恐ろしさや自分の命を守ること、友達や先生の命を守ること等の大切さとその方法について、避難訓練を通じ児童生徒に繰り返し指導している。

ウ 児童生徒全員分の1週間分の飲料水・非常食糧・毛布・着替え等については磐田学園で用意し保管している。

(2) 防災訓練

学校防災計画に従い、児童生徒の安全と校舎その他施設設備の保全に努めている。訓練前には目標を児童生徒に伝えとともに、命を守るための行動確認を繰り返し行う。訓練後は児童生徒には取組の振り返りを行い、教職員はアンケートで振り返り及び問題点の洗い出しを行っている。

年度	月日	訓練	訓練内容	参加者数
6	4.22	地震想定避難訓練	避難経路や新たな避難場所の確認 避難の約束の確認	50人
	6.11	火災想定避難訓練	避難経路や火災時の避難方法の確認 学園・学校間の連絡方法を確認 煙体験	52人
	9.17	地震、火災想定避難訓練	避難経路や方法の確認 学園への引き渡し	50人

	11. 30	南海トラフ地震 臨時情報発令時の避難 訓練	南海トラフ地震臨時情報が発令された 際の動きの確認 避難方法の確認 学 園への引き渡し	50 人
	7. 2. 18	予告なし避難訓練(地 震、火災)	児童生徒、教職員の避難の判断方法の 確認 児童生徒の安全確認方法の確認	50 人

7 学校開放について
実施していない。

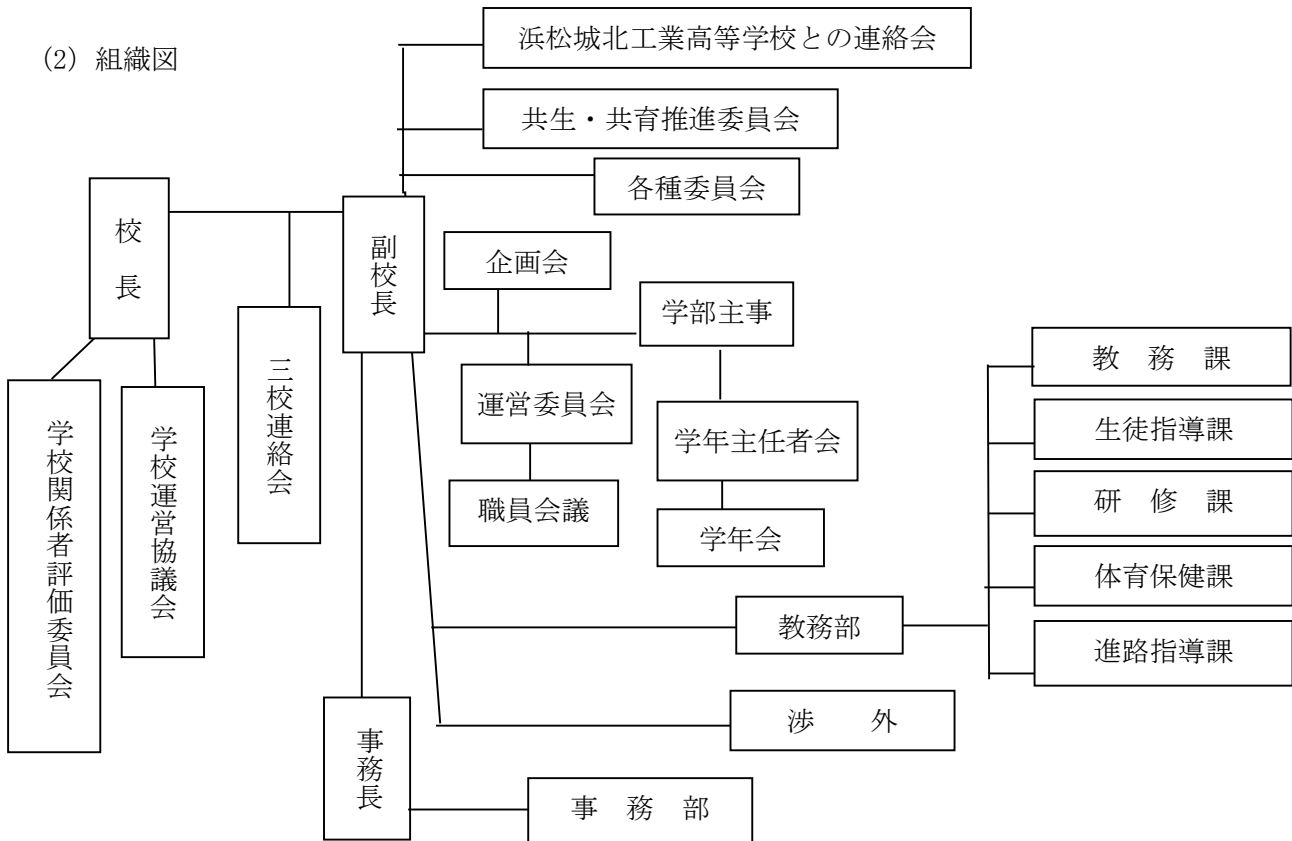
事務事業の概要(城北分校)

1 概況

(1) 学校の沿革

平成 22. 5. 26	浜松特別支援学校分校設置準備委員会発足
平成 23. 4. 1	静岡県立浜松城北工業高等学校内（浜松市中区住吉五丁目 16 番 1 号）に 静岡県立浜松特別支援学校城北分校(高等部)開校 入学定員 18 人
平成 23. 4. 6	開校式及び第 1 回入学式を举行 入学生 17 人(2 学級)
平成 26. 3. 11	第 1 回卒業式举行 卒業生 15 人(2 学級)
平成 26. 3. 30	駐輪場設置
平成 31. 2. 20	全普通教室エアコン設置
令和 2. 10. 13	全特別教室エアコン設置
令和 3. 11. 12	創立 10 周年
令和 6. 4. 1	入学定員 27 人(3 学級)

(2) 組織図



2 目指す学校像

本分校は、県立浜松城北工業高等学校の敷地内にある高等部単独の分校である。知的障害の生徒を対象に、将来の生活に必要な力を「社会生活を支える力」「豊かな生活を支える力」「職業生活を支える力」の3点で捉え、職業教育の充実や高校、地域との共生・共育を推進しながら、学校教育目標の実現に向け、以下のような学校を目指す。

(令和6年度)

共生社会の中で「自分らしく力強く生きる人」を育てる

(城北分校)

自分の良さや個性を発揮して地域で学び、共生社会の一員として職業的に自立する人を育てる。

- (1) 個別最適な学びと協働的学びを実現する学校
- (2) 命を守り、人権を尊重した安全で安心な学校
- (3) 家庭、地域、関係機関と協働して支援する学校
- (4) 全教職員が主体的に学校づくりに参画する学校

3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等

ア <授業> 個別最適な学びと協働的学びを実現する

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
(ア)	生徒が夢中になれる学校生活づくり	時期毎、取り組むべきことを明確化・焦点化している。	A…49.9 B…59.1 C…0 D…0 100%	A	○今やるべきことが明確になり、学部及び学年として、同じ方向に向けて活動することができた。 ○学年会等でテーマを確認し共有することで、テーマを話題にした教育活動ができた。 ○テーマを題材にした各教科での授業づくりをすることができた。 ●年間指導計画の作成について、その時期のテーマと授業の学習内容や題材を精選して指導計画を作成する。
(イ)	協働的な学びの充実	集団で取り組む(友だちと取り組む)良さを生かした授業を実施している。	A…45.5 B…54.5 C…0 D…0 100%	A	○活動内容や、生徒の実態に合わせた集団編成を意図的に作り取り組むことができた。 ○集団で対話しながら授業を思い出し振り返り、目標への評価をすることができた。 ○作業学習では、集団においてリーダーを中心に組織的動き、一人一人がどのように動くかを考えることができた。 ●生徒の実態における集団編成と職員数のバランス、教材づくりや人数の確保などの課題がある。
(ウ)	個に応じた指導の充実	実態・課題から願う姿をイメージし、個別的教育支援計画や指導計画の目標を設定している。	A…22.7 B…77.3 C…0 D…0 100%	A	○個別の指導計画を作成することで、個に応じた指導の充実に繋げることができた。 ○様式や記入例の見直しをした。 ●偏りなく指導したり、個別的教育支援計画や個別の指導計画の検討時間の確保や活用の工夫が課題である。
(エ)	自立活動の充実	流れ図から指導すべき目標を導き出し、教育活動全体を通じた指導を使い、効果的に指導を行っている。	A…18.2 B…59.1 C…22.7 D…0 77.3%	B	○流れ図に関する考え方について学部研修及び夏季自立活動研修会で学ぶ機会を設定したことで、アセスメントの大切さに気付く教員が増えた。また、複数の教員で自立活動の目標について話し合う機会を設定することができた。 ●流れ図を作成する時間が取れない。 自立活動の目標から、効果的な指導を実践することが難しい。
(オ)	作業学習の充実	成就したいことは何かを明確にし、最良のテーマを基に夢中になる授業づくりをしている。	A…27.3 B…63.6 C…9.1 D…0 90.1%	A	○生徒のやりがいについて話し合う機会を設けた。学年内で作業学習について考える時間を設定できた。その中で、成就したいことは何かについて、指導する教員同士で共有する時間を増やすことができた。また、作業学習における目標を明確にし、指導する学年が増えた。 ●「職業」とのつながりに対する実践については、研修として学部間共有される場面が少なかった。
(カ)	ICTの活用の	ノートパソコン	A…36.4 B…50	A	○ICT支援員を招いた職員研修会、BYODルールの検討等を行い、必要に応じて、

	促進	やタブレット等 を利用し、「個別 最適な学び」「協 働的な学び」を 目指した授業づ くりをしている。	C…13.6 D…0 86.4%		ICT を活用した学習に取り組むことが できた。 ●生徒一人一台端末(1 年生)を 1 月から 開始していく中で、授業に有効なアプリ やその使用の仕方について、全教員の力 量を高めていくことが課題である。
(キ)	道 徳 指 導 の 充 実	道徳指導の観点 から押さえるべ き内容を確認し て、各教科で合 わせた指導を行 っている。	A…27.3 B…59.1 C…13.6 D…0 86.4%	A	○道徳の全体計画を提示し、各学年 10 回、道徳の時間を設けて指導に取り組 むことができた。 ●道徳的観点を意識しながら指導するこ とが課題である。

イ <安全> 命を守り、人権を尊重した、安全で安心な学校

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
(ア)	命を守る意 識と行動力 の向上	生徒が自分で考 えて自らの身 を守る行動を とることができる。	A…40.9 B…59.1 C…0 D…0 100%	A	○様々な状況を想定した避難訓練の実施 と学校で統一した事前学習を行うこと で生徒の自分の命を守る意識を高める ことができた。 ○教師による防災計画の役割の確認をす ることができた。 ●より生徒自身が考えて行動できるよう な避難訓練にすることが課題である。
(イ)	安全・快適な 環境づくり	施設を効果的に 活用するため に、廃棄・片付 け・清掃に自ら 気付き取り組ん でいる。	A…36.4 B…63.6 C…0 D…0 100%	A	○体育器具庫や階段下については体育保 健課で整理整頓できた。安全管理点検(月 1 回)、職員作業(学期 1 回)が予定通り 実施できた。
(ウ)	事 故 防 止 の 強 化	怪我の予防、不 慮の事故を無く すよう、児童生 徒の実態に応じ た配慮を行って いる。	A…31.8 B…68.2 C…0 D…0 100%	A	○今年度はヒヤリハットが 2 件で、保健室 の来室件数や怪我等も減少した。 ●どのような事故(健康障害等)やケガが 予測されるのかを、職員が事前に共有しそ ののための対策を講じることが常に必要で ある。
(エ)	人 権 を 守 る 意 識 と 行 動 力 の 向 上	学校が生徒の居 場所(安心する 場)となるよう、 人権を意識した 言動を心掛けて いる。	A…45.5 B…50 C…4.5 D…0 95.5%	A	○人権研修会や人間関係作り講座をと おして、人権について考える機会を設定 することができた。 ○保護者にホームページなど人権教育に ついて発信ができた ○いじめアンケートを行い、聴き取りや対 応をすることで、今後のいじめの未然防 止や生徒の人権についての意識を高め ることができた。 ●分掌として人権スローガンや人権教育 の情報共有など先生方への啓発などがや や不足していた。

ウ <協働> 家庭、地域、関係機関と協働して支援する学校

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
(ア)	発 信 力 の 向 上	学校をより理解 してもらえるよ	A…27.3 B…72.7 C…0 D…0	A	○12 月までに準備を進め、1 月よりイン スタグラムによる配信を開始した。 ○学校ホームページを新様式に移行した。

		う、伝え方、発信の仕方を工夫している。	100%		●小中学校に対しての分校（特別支援学校）理解をしてもらうための啓発活動検討する。
(イ)	進路指導の充実	生徒の「夢」を育み、本人・保護者の「願い」を大切にしながら進路指導をしている。	A…40.9 B…59.1 C…0 D…0 100%	A	○生徒、保護者の希望に応じた実習先をおおむね開拓し、実習や進路先へつなげることができた。新規の実習受け入れ先（10社） ●キャリアパスポートの有効活用のための具体的方策の検討及び共有と実施していく。
(ウ)	センター的機能の充実	高等学校のニーズに対応するため研修支援等への依頼に応じている。	A…36.4 B…59.1 C…4.5 D…0 95.5%	A	○城北工業高校に対して研修会を行ったり、教師からの個別の相談に応じ、本校の授業参観の機会を設けたりすることができた。 ○浜松北高校の個別の教育支援計画、個別の指導計画についての相談に対応することができた。 ●高校のニーズや対応について本校職員への周知

エ <チーム> 全教職員が主体的に学校づくりに参画する学校

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
(ア)	コミュニケーション力の向上	働きやすいチームとなるよう、相手の立場に立った伝え方、受け止め方を心掛けている。	A…45.5 B…45.5 C…9 D…0 91%	A	○打ち合わせや会議以外での、職員間の会話を意識することで、職員室での会話が増えた。 ●役職や担当立場など、集団や個々の負担感をそれぞれが把握し、役割を分担する、周りへの心遣いを忘れない組織にすることが課題である。
(イ)	城北分校教職員としての自覚の向上	生徒定員数増に伴い、すべきこと・できることを考え、実践している。	A…68.2 B…31.8 C…0 D…0 100%	A	○定員増に伴う授業形態の在り方の工夫、作業学習における活動班を来年度から一つ増やす準備を行うことができた。 ●授業形態や職員の業務、限られた施設の活用、進路開拓など課題を明確にし、全体で共有して取り組む必要がある。
(ウ)	働き方改革の推進	特別な場合は除き、週に複数回、事務処理時間を確保している。 ----- 時間外勤務45H/月以上が連続する職員はいない。	A…18.2 B…45.5 C…36.4 D…0 63.6%	B	○授業により空きをとれる体制や必要人数を考えた授業づくりを共有し、調整できた。 ○授業内容により、職員をローテーションで空き時間をつくり、事務作業など有効に活用できた。 ●授業内容や進捗状況などの共有する時間の確保、担当者同士での授業づくりの時間確保など、 ●授業準備や行事、研究授業などが重なること、目標設定や評価の時期的なこともあるが、個々の業務時間の確保など見直し検討が課題である。
(ウ)	倫理観の向上	不祥事0件	A…68.2 B…31.8 C…0 D…0 100%	A	○不祥事0件 ○県教委からのコンプライアンス通信による具体的な事例を含めた資料を、職員と共有することで、全体の意識を高めることができた。

4 監査対象期間における特色ある取組

年 度	取 組 概 要	成果及び課題
令和6年度	・技能検定については、外部専門家を招き学期ごと喫茶サービスの学習に取り組んだ。2年生全員が校内で検定を行った。 ・学校間交流として、同敷地内にある浜松城北工業高校との行事等を合同で開催した。	・喫茶サービスの学習を行った生徒全員に技能検定を実施した。目標を持って学習に取り組み、技能検定では、学習の成果を確認したり、達成感を味わったりすることができた。また、オークラアクティホテル浜松を会場とした技能検定を実施し、浜松特別支援学校、浜名特別支援学校の生徒も参加した。他校の生徒が参加することで、お互いの技能を認め合う場とすることもできた。今後は、人と接する楽しさを感じ、喫茶サービスで身に付けた技能を日常生活で確かな力として実践できるようにしていきたい。 ・対面式、部活動の壮行会、体育大会、文化祭、球技大会などを合同で行った。城北分校の生徒全員を1クラスとして、浜松城北工業高校のクラス対抗に参加をして競技を行ったり、展示・販売を行ったりした。さらに授業交流などを行うことで、同年代の生徒同士の自然なコミュニケーションがとれるようになった。

5 教職員について

(1) 令和6年度異動状況（城北分校）

		本務職員						臨時職員		会計年度 任用職員	合 計
		副校長	教諭	養護教諭	主任	主事	小計	任期付教諭	臨時教諭	非常勤 労務職員	
城北分校	転出者		3				3	1			4
	退職者	1					1				1
	転入者	1	4				5	1			6
	新任者		2				2				2
	再任用者										
	差 引 増 減	0	3				3	0			3

(2) 現員数

（令和7年4月1日現在）

区 分	性 別	本務職員					臨時職員		会計年度 任用職員	学校医	合 計
		副校長	教諭	養護教諭	主任	小計	任期付教諭	臨時教諭	非常勤 労務職員		
城北分校	男		10			10				4	14
	女	1	12	1	1	15	1	2	1	2	31
	計	1	22	1	1	25	1	2	1	6	35

(3) 健康管理について

ア 健康管理の徹底

- (ア) 定期健康診断・生活習慣病検診の受診の徹底を図り、疾病の早期発見に努める。
- (イ) 教職員の健康管理への意識の高揚を図るため、健康管理医による講話を開催する。
- (ウ) 腰痛健診、腰痛予防講座を実施して、自己管理の促進を図る。
- (エ) 職員安全衛生委員会を開催し、教職員の健康診断結果や保健室の利用状況等について協議する。
- (オ) メンタルヘルスチェックを実施して、精神面での自己管理の促進を図る。

(4) 教職員の研修について

(令和6年度)

目 的	研修内容及び成果	課 題
自分たちで考え、判断し、行動できる姿を目指した授業づくり ～やりがいと評価規準を大切にした作業学習～	作業学習（委託作業）を中心として、作業意欲を高める工夫と評価と改善を行うことで生徒がやりがいをもって活動する授業を目指した。そのために、以下の3点を行った。 1 作業学習(主に委託作業)において、授業設計の視点で単元を構想し、目標、評価規準の設定、作業工程及び内容の分析を行い、作業意欲を高める工夫を行う。 2 事後の評価を通して改善を図り、働くための基礎を固め、やりがいを持って働けることを目指した授業づくりを進めていく。 3 教師が生徒の頑張ったことを認める、褒めるといった働き掛けをすることによって、生徒が作業学習において自己有用感や自己効力感等を感じる経験を積み重ね、将来、意欲や責任を持って社会生活へ主体的に参加できることを目指す。 成果として、生徒が自分たちで解決策を促すような言葉掛けや動きがみられるようになったり、常に活動しようとしたりする生徒が増えた。また、仲間と協働する姿が見られようになり、仕事の大変さを感じつつも、働くことに充実感や達成感を得る生徒が多くなってきた。	授業時間の中に、話し合い活動が多く、継続した作業時間が少なくなった。今後は、職業科の授業でも扱う内容を意識し、職業科で学習した内容を実際に体験しながら実感する場面を増やしていきたい。 また、生徒が自分の成長を実感するために、教師が仕事を行うための専門的かつ具体的な評価方法を身につける必要があると思われる。

6 防災対策について

(1) 地震対策

- ア 教育活動全領域の中で、防災意識の高揚を図るとともに、災害に際した非常対策を立て、全職員・生徒への周知徹底に努めた。
- イ 生徒の非常用食料・毛布・簡易トイレ等を準備した。
- ウ 防災週間に、災害用伝言ダイヤル(171)を利用した生徒の安否情報等録音・再生の訓練を保護者・教職員を対象に実施した。

(2) 防災訓練

学校防災計画に従い、火災予防に万全の注意を払い、生徒の安全と校舎その他施設設備の保全に努めている。

年度	月 日	訓 練	訓 練 内 容	参加者数
5	4・22	地震避難訓練（合同）	地震発生時の1次避難、2次避難の仕方 避難経路の確認	71 人 (880 人)
	8・29	地震避難訓練（合同）	地震（南海トラフ地震）を想定した総合 防災訓練	71 人 (880 人)
	12・19	地震・火災避難訓練 （合同）	地震及び火災発生時の安全な避難方法	71 人 (880 人)

- 7 学校開放について
実施していない。

事務執行の根拠法令調

項 目	根 拠 法 令
1 学校教育に関する こと	教育基本法（第1条、第2条、第6条） 学校教育法（第1条、第2条、第3条、第72条、第73条、第74条、第76条、第77条） 学校教育法施行令 学校教育法施行規則 学校保健安全法（第5条） 学校給食法（第4条） 特別支援学校の幼稚部及び高等部における学校給食に関する法律（第3条） 静岡県立学校設置条例 静岡県立特別支援学校学則 静岡県就学支援委員会規則 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 特別支援学校高等部学習指導要領
2 学校の管理・運営 に関すること	学校教育法（第137条） 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（第33条） 静岡県立学校管理規則 教育公務員特例法（第21条、第22条） 学校保健安全法（第4条、第7条～第9条、第13条～第15条、第23条、第26条～第28条） 静岡県立学校職員安全衛生管理規程 静岡県立学校の施設等の開放に関する要綱 学校図書館法（第3条、第4条） 静岡県教育委員会処務規程 特別支援学校への就学奨励に関する法律（第2条、第3条） 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行令 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行規則 特別支援教育就学奨励費負担金等及び要保護児童生徒援助費補助金交付要綱 要保護児童生徒援助費補助金及び特別支援教育就学奨励費補助金交付要綱

学校施設の概要(本校)

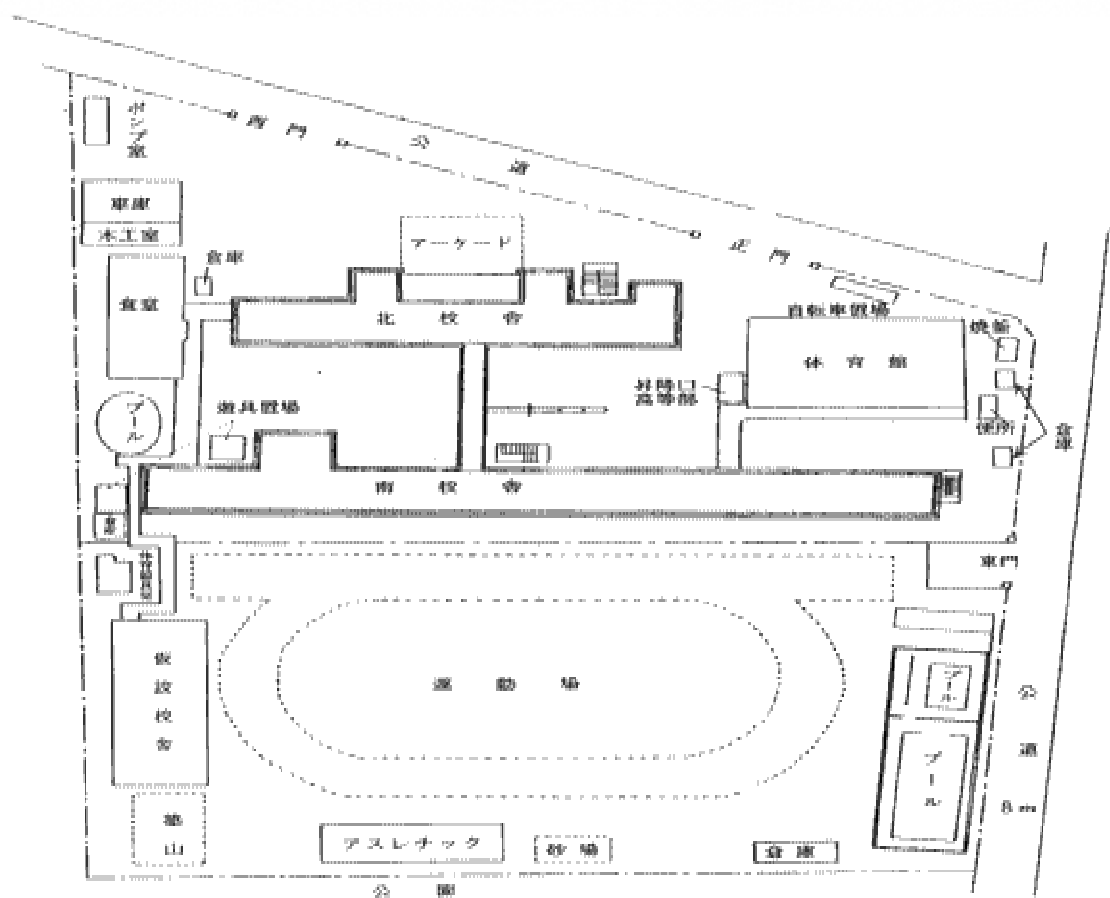
1 面積及び所有区分

(令和7年2月28日現在)

区 分		面 積 ㎡	所 有 内 訳					摘 要
			県 有 ㎡	国 有 ㎡	市町村有 ㎡	後援会有 ㎡	民 有 ㎡	
学 校 敷 地		16, 551. 18	16, 551. 18					
内 訳	校舎敷地	9, 627. 98	9, 627. 98					
	運動場敷地	6, 923. 20	6, 923. 20					
	そ の 他 の 敷 地							
校 舎		<u>建 2, 733. 39</u> 延 6, 620. 23	<u>2, 733. 39</u> 6, 620. 23					
体 育 館		<u>建 573. 50</u> 延 500. 25	<u>573. 50</u> 500. 25					
その他の建物		<u>建 426. 43</u> 延 426. 43	<u>426. 43</u> 426. 43					
プ ー ル		192. 00	192. 00					大8m×20m 小4m×8m

2 配置・規模等

(1) 校舎等の配置図



(2) 学校施設の規模等（法面・演習林等を除く）

区 分	学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当 校	16,551.18 m ²	6,620.23 m ²	6,923.20 m ²
県平均	18,814.78 m ²	6,361.36 m ²	5,224.39 m ²

学校施設の概要（磐田分校）

1 面積及び所有区分

（令和7年2月28日現在）

区 分		面 積 m ²	所 有 内 訳					摘 要
			県 有 m ²	国 有 m ²	市町村有 m ²	後援会有 m ²	民 有 m ²	
学 校 敷 地		1,712.25	1,712.25					磐田学園借地
内 訳	校舎敷地	1,017.25	1,017.25					
	運動場敷地							
	そ の 他 の 敷 地	695.00	695.00					
校 舎		建 810.51 延 1,516.89	810.51 1,516.89					
その他の建物		建 8.74 延 8.74	8.74 8.74					

2 配置・規模等

(1) 校舎等の配置図



(2) 学校施設の規模等（法面・演習林等を除く）

区 分	学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当 校	(1,712.25 m ²)	1,516.89 m ²	- m ²
県平均	(m ²)	m ²	- m ²

学校施設の概要（城北分校）

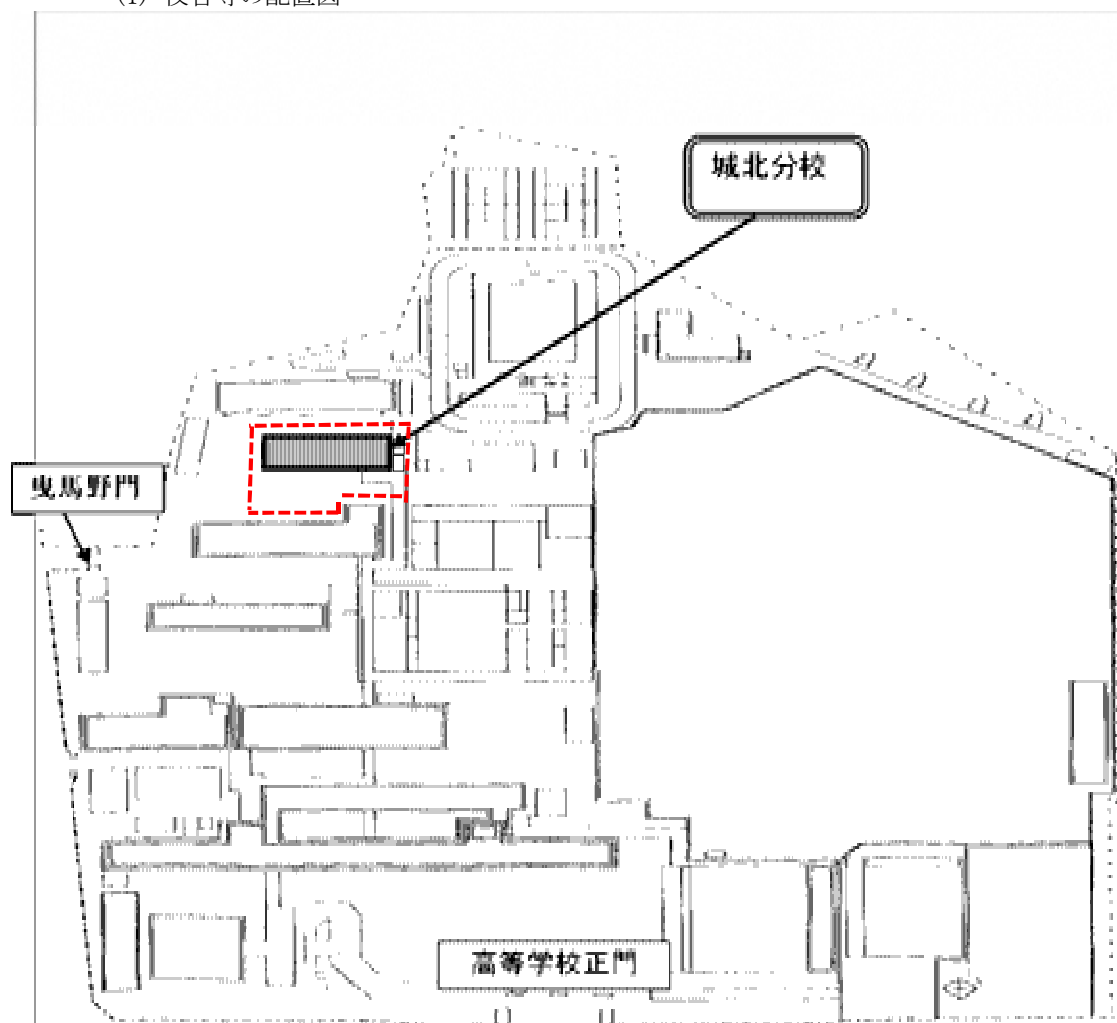
1 面積及び所有区分

（令和7年2月28日現在）

区 分		面 積 m ²	所 有 内 訳					摘 要
			県 有 m ²	国 有 m ²	市町村有 m ²	後援会有 m ²	民 有 m ²	
学 校 敷 地		1,008.71	1,008.71					城北工業高等学校借地
内 訳	校舎敷地	958.21	958.21					
	運動場敷地							
	そ の 他 の 敷 地	50.5	50.5					
校 舎		建 820.44 延1,389.00	820.44 1,389.00					

2 配置・規模等

(1) 校舎等の配置図



(2) 学校施設の規模等（法面・演習林等を除く）

区 分	学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当 校	(1,008.71 m ²)	1,389.00 m ²	- m ²
県平均	(m ²)	m ²	- m ²

在 籍 生 徒 調

(小学部)

(令和 7 年 2 月 28 日現在)

学年	所属		本 校			磐 田 分 校			合 計		
	区分		男	女	計	男	女	計	男	女	計
1 年	入 学 者		15	2	17	1		1	16	2	18
		増加 減少									
	現 在		15	2	17	1		1	16	2	18
2 年	入 学 者		18	3	21				18	3	21
		増加 減少	1	1	2	2	1	3	3	2	5
	2 年 時 当 初		19	4	23	2	1	3	21	5	26
		増加 減少	1		1				1		1
	現 在		20	4	24	2	1	3	22	5	27
3 年	入 学 者		22	5	27				22	5	27
		増加 減少									
	2 年 時 当 初		21	5	26				21	5	26
		増加 減少									
	3 年 時 当 初		21	5	26				21	5	26
		増加 減少		1	1					1	1
	現 在		21	6	27				21	6	27
4 年	入 学 者		15	5	20	4		4	19	5	24
		増加 減少									
	2 年 時 当 初		15	5	20	4		4	19	5	24
		増加 減少	2		2		1	1	2	1	3
	3 年 時 当 初		17	5	22	3	1	4	20	6	26
		増加 減少	2 1	1	3 1				2 1	1	3 1
	4 年 時 当 初		18	6	24	3	1	4	21	7	28
		増加 減少	1		1				1		1
	現 在		19	6	25	3	1	4	22	7	29

学年	所属 区分		本 校			磐 田 分 校			合 計		
			男	女	計	男	女	計	男	女	計
5 年	入 学 者		15	6	21	2		2	17	6	23
		増加				1		1	1		1
		減少	4		4				4		4
	2 年 時 当 初		11	6	17	3		3	14	6	20
		増加									
		減少									
	3 年 時 当 初		11	6	17	3		3	14	6	20
		増加	1		1		1	1	1	1	2
		減少	2		2				2		2
	4 年 時 当 初		10	6	16	3	1	4	13	7	20
		増加				1		1	1		1
		減少	1		1	1		1	2		2
	5 年 時 当 初		9	6	15	3	1	4	12	7	19
		増加									
減少											
現 在		9	6	15	3	1	4	12	7	19	
6 年	入 学 者		15	3	18	2	1	3	17	4	21
		増加									
		減少									
	2 年 時 当 初		15	3	18	2	1	3	17	4	21
		増加	2		2				2		2
		減少	6		6				6		6
	3 年 時 当 初		11	3	14	2	1	3	13	4	17
		増加					1	1		1	1
		減少					1	1		1	1
	4 年 時 当 初		11	3	14	2	1	3	13	4	17
		増加		1	1		1	1		2	2
		減少									
	5 年 時 当 初		11	4	15	2	2	4	13	6	19
		増加				1		1	1		1
		減少					2	2		2	2
	6 年 時 当 初		11	4	15	3	0	3	14	4	18
	増加					1	1		1	1	
	減少		1	1					1	1	
現 在		11	3	14	3	1	4	14	4	18	
小 学 部 計			95	27	122	12	4	16	107	31	138

(中学部)

学年	所属 区分		本 校			磐 田 分 校			合 計		
			男	女	計	男	女	計	男	女	計
1 年	入 学 者		20	11	31	3	1	4	23	12	35
		増加					1	1		1	1
		減少									
	現 在		20	11	31	3	2	5	23	13	36
2 年	入 学 者		12	9	21	5	2	7	17	11	28
		増加									
		減少	2	1	3				2	1	3
	2 年 時 当 初		10	8	18	5	2	7	15	10	25
		増加									
		減少									
	現 在		10	8	18	5	2	7	15	10	25
3 年	入 学 者		7	3	10		2	2	7	5	12
		増加				1		1	1		1
		減少	1		1				1		1
	2 年 時 当 初		6	3	9	1	2	3	7	5	12
		増加									
		減少				1		1	1		1
	3 年 時 当 初		6	3	9	0	2	2	6	5	11
		増加									
		減少					1	1		1	1
現 在		6	3	9	0	1	1	6	4	10	
中 学 部 計			36	22	58	8	5	13	44	27	71

(高等部)

学年	所属		本 校				磐 田 分 校			城 北 分 校				合 計		
	区分		総	男	女	計	男	女	計	総	男	女	計	男	女	計
1年	入 学 者		39	27	7	34				27	17	10	27	44	17	61
		増加														
		減少														
	現 在			26	7	33					17	10	27	43	17	60
2年	入 学 者		57	28	17	45				18	10	7	17	38	24	62
		増加														
		減少														
	2年時当初			28	17	45					10	7	17	38	24	62
		増加														
		減少														
	現 在			28	17	45					10	7	17	38	24	62
3年	入 学 者		48	26	13	39				18	11	8	19	37	21	58
		増加														
		減少														
	2年時当初			23	10	33					11	8	19	34	18	52
		増加														
		減少														
	3年時当初			23	10	33					10	8	18	33	18	51
		増加														
		減少														
現 在			20	9	29					10	8	18	30	17	47	
高 等 部 計				74	33	107					37	25	62	111	58	169

学校合計		205	82	287	20	9	29		37	25	62	262	116	378
------	--	-----	----	-----	----	---	----	--	----	----	----	-----	-----	-----

入学志願者及び入学者数調

区 分		令和 3 年度		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度		令和 7 年度	
学 科 別		高等部		高等部		高等部		高等部		高等部	
		本校	城北分校	本校	城北分校	本校	城北分校	本校	城北分校	本校	城北分校
生徒定員(A)		48	18	48	18	57	18	39	27	30	27
募集者数(B)		48	18	48	18	57	18	39	27	30	27
志願者数	男	33	26	26	25	28(0)	16	28	17	23	25
	女	14	8	13	13	16(1)	12	7	12	8	12
	計(C)	47	34	39	38	44(1)	28	35	29	31	37
受検者数	男	32	26	26	25	28(0)	15	28	17	23	25
	女	14	8	13	13	16(1)	12	7	11	8	12
	計(D)	46	34	39	38	44(1)	27	35	28	31	37
合格者数	男	32	14	26	11	28(0)	10	28	17	23	19
	女	14	4	13	8	16(1)	8	7	10	8	8
	計(E)	46	18	39	19	44(1)	18	35	27	31	27
志願倍率(C)/(B)		0.98	1.89	0.81	2.11	0.77	1.55	0.90	1.07	1.03	1.37
受検倍率(D)/(B)		0.96	1.89	0.81	2.11	0.77	1.50	0.90	1.03	1.03	1.37
入学者数	男	32	14	26	11	28	10	27	17	23	19
	女	14	4	13	8	17	7	7	10	8	8
	計(F)	46	18	39	19	45	17	34	27	31	27
充足率(F)/(A)		0.96	1.00	0.81	1.05	0.79	0.94	0.87	1.00	1.03	1.00

卒業生の動向調

区 分		本 校			磐田分校	城北分校		合 計
		中学部	高 等 部		中学部	高 等 部		
			本 科	専攻科		本 科	専攻科	
進 学 者	普 通 高 校	0	0		0	0		0
	特別支援学校 高 等 部	7	0		0	0		7
	高等部専攻科	0	0		0	0		0
	四 年 制 大 学	0	0		0	0		0
	短 期 大 学	0	0		0	0		0
	専修・各種学校	0	0		0	0		0
	公共職業訓練校	0	0		0	0		0
	小 計	7	0		0	0		7
施設等 入所者	障害者支援施設等	0	19		1	1		21
	他 の 施 設	0	0		0	0		0
	小 計	0	19		1	1		21
就 職 者		0	10		0	16		26
在 宅 療 養 等		2	0		0	1		3
そ の 他		0	0		0	0		0
計		9	29		1	18		57

生徒の状況（本校）

1 生徒の出身地域及び通学方法（令和7年2月28日現在）

（1）出身地

（単位：人）

市 町 名	□ □ □	合 計
生 徒 数	287	287
構 成 比 %	100%	100%

（2）通学方法

（単位：人）

区 分	ス ク ー ル バ ス	交通機関	自家用車	徒 歩	自 転 車	合 計
生 徒 数	154	66	57	4	6	287
構 成 比 %	53.6%	23.0%	19.9%	1.4%	2.1%	100%

2 部（クラブ）の加入状況（令和7年2月28日現在）

（高等部）

（単位：人）

区 分		運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ)数		3	3		6
男子	1 年	5	2	19	26
	2 年	6	2	20	28
	3 年	8	3	9	20
	計(A)	19	7	48	74
	構成比	25.6%	9.4%	64.8%	100%
女子	1 年	0	2	5	7
	2 年	1	4	12	17
	3 年	0	1	8	9
	計(B)	1	7	25	33
	構成比	3.0%	21.2%	75.8%	100%
合計	(A+B)	20	14	73	107
	構成比	18.7%	13.1%	68.2%	100%

3 障害別児童生徒数

(令和7年2月28日現在) (単位:人)

区 分		1 年 (2歳)	2 年 (3歳)	3 年 (4歳)	4 年 (5歳)	5 年	6 年	合 計	学級数
幼稚園部	単一障害								
	—								
	—								
	合 計								
小学部	単一障害	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	重複障害	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	肢体重複	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	合 計	17	☐	27	25	15	14	122	☐
中学部	単一障害	☐	☐	☐				☐	☐
	重複障害	☐	☐	☐				☐	☐
	肢体重複	☐	☐	☐				☐	☐
	合 計	31	18	9				58	16
高等部	単一障害							☐	13
	重複障害							☐	3
	肢体重複							☐	0
	合 計	33	45	29				107	16

4 起因疾患別児童生徒数

(令和7年2月28日現在) (単位:人)

区 分	☐ ☐ ☐	☐ ☐ ☐	☐ ☐ ☐	☐ ☐ ☐	☐ ☐ ☐	計
幼稚園部						
小学部	☐	☐	☐	☐	☐	122
中学部	☐	☐	☐	☐	☐	58
高等部	☐	☐	☐	☐	☐	107
訪 問						
計	67	18	132	61	9	287

生徒の状況（磐田分校）

1 生徒の出身地域及び通学方法（令和7年2月28日現在）

（1）出身地

（単位：人）

市町名	☐ ☐ ☐	☐ ☐ ☐	☐ ☐ ☐	☐ ☐ ☐	☐ ☐ ☐	☐ ☐ ☐	☐ ☐ ☐	☐ ☐ ☐	☐ ☐ ☐	☐ ☐ ☐	☐ ☐ ☐	☐ ☐ ☐	☐ ☐ ☐	☐ ☐ ☐	合計
生徒数	3	4	3	3	1	2	1	4	1	2	1	1	1	2	29
構成比%	10.3%	13.7%	10.3%	10.3%	3.5%	6.9%	3.5%	13.7%	3.5%	6.9%	3.5%	3.5%	3.5%	6.9%	100%

（2）通学方法

（単位：人）

区 分	徒 歩	合 計
生 徒 数	29	29
構 成 比 %	100%	100%

2 部（クラブ）の加入状況（令和7年2月28日現在）

（単位：人）

区 分		運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ)数					
男子	1 年				
	2 年				
	3 年				
	計(A)				
	構成比				
女子	1 年				
	2 年				
	3 年				
	計(B)				
	構成比				
合計	(A+B)				
	構成比				

3 障害別児童生徒数

(令和7年2月28日現在) (単位:人)

区 分		1 年 (2歳)	2 年 (3歳)	3 年 (4歳)	4 年 (5歳)	5 年	6 年	合 計	学級数
幼 稚 部	単一障害								
	—								
	—								
	合 計								
小 学 部	単一障害	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	4
	重複障害	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	1
	肢体重複	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	合 計	1	3	0	4	4	4	16	5
中 学 部	単一障害	☐	☐	☐				☐	4
	重複障害	☐	☐	☐				☐	1
	肢体重複								
	合 計	5	7	1				13	5
高 等 部	単一障害								
	重複障害								
	肢体重複								
	合 計								

4 起因疾患別児童生徒数

(令和7年2月28日現在) (単位:人)

区 分	☐ ☐ ☐	☐ ☐ ☐	☐ ☐ ☐	☐ ☐ ☐	計
幼 稚 部					
小 学 部	☐	☐	☐	☐	16
中 学 部	☐	☐	☐	☐	13
高 等 部					
訪 問					
計	10	14	1	4	29

生徒の状況（城北分校）

1 生徒の出身地域及び通学方法（令和7年2月28日現在）

（1）出身地（単位：人）

市 町 名	□ □ □	□ □ □	合 計
生 徒 数	61	1	62
構 成 比 %	98.4%	1.6%	100%

（2）通学方法（単位：人）

区 分	交通機関	徒 歩	自 転 車	合 計
生 徒 数	30	6	26	62
構 成 比 %	48.4%	9.7%	41.9%	100%

2 部（クラブ）の加入状況（令和7年2月28日現在）

（高等部）（単位：人）

区 分		運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ)数		1	1		2
男子	1 年	7	3	7	17
	2 年	4	1	5	10
	3 年	6	1	3	10
	計 (A)	17	5	15	37
	構成比	46.0%	13.5%	40.5%	100%
女子	1 年	1	3	6	10
	2 年	0	1	6	7
	3 年	1	2	5	8
	計 (B)	2	6	17	25
	構成比	8.0%	24.0%	68.0%	100%
合計	(A+B)	19	11	32	62
	構成比	30.7%	17.7%	51.6%	100%

3 障害別児童生徒数

(令和7年2月28日現在) (単位:人)

区 分		1 年 (2歳)	2 年 (3歳)	3 年 (4歳)	4 年 (5歳)	5 年	6 年	合 計	学級数
幼稚園部	単一障害								
	—								
	—								
	合 計								
小学部	単一障害								
	重複障害								
	肢体重複								
	合 計								
中学部	単一障害								
	重複障害								
	肢体重複								
	合 計								
高等部	単一障害	□	□	□				62	10
	重複障害								
	肢体重複								
	合 計	27	17	18				62	10

4 起因疾患別児童生徒数 (令和7年2月28日現在) (単位:人)

区 分	□□□	□□□	計
幼稚園部			
小学部			
中学部			
高等部	□	□	34
訪 問			
計	21	13	34

特別支援学校における生産物売払調（本校）

令和 6 年度

（令和 7 年 2 月 28 日現在）

	主な生産品目		
6 年 度	<手芸品・工作物> コードホルダー、トレイ、革小物、スマホショルダー、キーホルダー、バッグ（大、小）、ペン立て、丸小物入れ、持ち手付ききんちゃく袋、きんちゃく袋（大、小）、ミニきんちゃく袋、ばねポーチ、コースター、ランチョンマット、しめ飾り、編みかご（大）、クリップ付き編みかご（小）、クリップ&マグネット、ティッシュボックスカバー、小物入れ（大、小）、クリアファイル、マルチ布巾、アクリル毛糸ほうき、ウール毛糸鍋敷き、かばん（大、中）、ミニかばん、ファスナーポーチ、SDGs しおり、フラップポーチ（大、小）、トートバッグ、布小物（ペアゴム、コースター）		
	<農作物・園芸品> 枝豆、さつまいも、ブロッコリー、玉ねぎ、エシャレット、大根、 <陶芸品> 平皿、大皿、中皿、小皿、八角皿、ビアマグ、アロマストーン、マルチボウル <木工用品> スピーカー、折りたたみ椅子、ウッドブロックタワー、カッティングボード、スマホスタンド、リース飾り、箱		
	① 売払金額	499,400 円	② 前年度との差額
			△20,900 円

5 年 度	<手芸品・工作物> アクリルタワシ、アクリルほうき、ポシェット、編みかご、しめ縄飾り、だるま飾り、スケジュール帳、巾着袋、布巾、トートバッグ、バッグ、丸型かご、ペン立て、四角形小物入れ、スマホホルダー、ハサミカバー、写真立て、キーホルダー、コードホルダー、ペンケース（三角、四角）、ポイントカード入れ、丸型コインケース、三角コインケース、まち付きコインケース、ボックスコインケース、マルチケース、ランチョンマット（普通、ミニ）、しずく巾着（大、小）、コースター、SDGs コースター、ミニクッション、SDGs キーホルダー、新スマホホルダー、名刺入れ、NEWキーホルダー、トレイ、（三角、四角）、丸型小物入れ、サコッシュ <農作物・園芸品> 玉ねぎ、大根、ブロッコリー、さつまいも、ピーマン、なす、枝豆 <陶芸品> 大皿、中皿、豆皿、カレー皿、平皿（取ってなし、取ってあり）、ペーパーウェイト、トーストスチーマー <木工用品> なんでもBOX、メモスタンド、コースターセット、折りたたみ椅子、おもちゃセット、ウッドブロックタワー、スピーカー			
	① 売払金額	520,300 円	② 前年度との差額	95,200 円
4 年 度	<手芸品・工作物> ポチ袋、クリアファイル、トートバッグ、ティッシュケース、巾着袋、スマホポーチ、マルチクリーナー、小物入れ、キーホルダー、フォトフレーム、ほうき、編み籠、編み掛け飾り、はさみカバー、ヘアピン、コードホルダー、カードケース、メガネケース、筆入れ、キーケース、かばんホルダー、コインケース、ティッシュケース、ランチョンマット、コースター、クッション、バッグ、ペン立て、ダストボックス、かご、平皿、バスケット <農作物・園芸品> 花の苗、なす、ピーマン、枝豆、ミニトマト、さつまいも、ブロッコリー、小松菜、チンゲン菜、水菜、ほうれん草、じゃがいも、大根、ネギ <陶芸品> フリーカップ、小皿、長皿、キャンドルシェード、中皿、大皿、コースター			

	<木工用品> メモスタンド、ペン立て、時計、ウッドブロックタワー、おもちゃ、コースター、折りたたみ椅子		
	①売払金額	425,100 円	②前年度との差額 △19,250 円

特別支援学校における生産物売払調（磐田）

令和6年度

（令和7年2月28日現在）

	主な生産品目			
6 年 度	<手芸品・工作物> ティッシュカバー、コースター、コースターセット、巾着、マチ付トートバッグ、ファブリックパネル、編みかご、スマホスタンド、ペン立て、鍋敷き <木工用品> コースター			
	① 売払金額	48,000 円	② 前年度との差額	△7,700 円
5 年 度	<手芸品・工作物> コースター、巾着袋、ティッシュカバー、エコバッグ（大、小）、ファブリックパネル（大、小）ペン立て、メモ帳 <木工用品> レンコンコースター、レンコンなべしき、寄せ木コースター			
	① 売払金額	55,700 円	② 前年度との差額	35,650 円
4 年 度	<手芸品・工作物> マグネット、ネームタグ、コースター、ペントレー <木工用品>			
	①売払金額	20,050 円	②前年度との差額	△18,550 円

特別支援学校における生産物売払調（城北）

令和6年度

（令和7年2月28日現在）

	主な生産品目			
6 年 度	マグネット（五角形）、キーホルダー（五角形）、小物入れ（五角形）、スライドケース、和綴じメモ帳、和綴じノート、ノート（A5、A6）、ペン差し付きノート（A6）、紙すきポチ袋、紙すきお祝い袋、キーケース、スマートキーケース、レザートレイ、ペンケース、名刺入れ、パスケース、結束バンド、ランチバンド、コインケース、サコッシュ、トートバッグ			
	① 売払金額	368,900 円	②前年度との差額	△80,600 円
5 年 度	＜手芸品・工作物＞ ボックスポーチ、スマホホルダー、サコッシュ、ノート（A5、A6）、和綴じメモ帳、ペン立て、マグネット（四角形、五角形）、スライドケース、パスケース、名刺入れ、コインケース、ペンケース、結束バンド、ヘアゴム、レザークリップ、キーケース、マウスパッド、キーホルダーバック、ランチバンド、バンド、レザートレイ、ヘアピン、キーカバー、カードケース、小物入れ、コンテナボックス			
	① 売払金額	449,500 円	②前年度との差額	△10,450 円
4 年 度	＜手芸品・工作物＞ ブックカバー、ふくさ、ノート、メモ帳、スケジュール帳、ふせん、書き取り帳、ランチバッグ、トートバッグ、サコッシュ、ポーチ、結束バンド、ランチバンド、キーホルダーバッグ、ベルトループ、小物入れ、コインケース、名刺入れ、パスケース、キーケース、トレイ、ペンケース、ヘアゴム、カレンダー、コンテナボックス、マグネット、ケース、ポチ袋、豆本、ダイアリー、クリップ、ペン立て			
	①売払金額	459,950 円	②前年度との差額	19,550 円

預 金 調

(令和7年2月28日現在)

金融機関名	預金種類	口座番号	口座名義人	残高	摘 要
株式会社静岡銀行 浜松南支店	無利息型 普通預金	0113900	静岡県立浜松特別支援学校 資金前渡者 園田 一哉	円 0	給料の現金支給
株式会社静岡銀行 浜松南支店	無利息型 普通預金	0558725	(自振口) 静岡県立浜松特別支援学校 資金前渡者 園田 一哉	0	後納郵便料金・電話料 金・社会保険料の口座 振替
株式会社静岡銀行 浜松南支店	無利息型 普通預金	0575477	静岡県立浜松特別支援学校 奨励費代理受領者 園田一哉	0	特別支援教育就学奨励 費
残 高 合 計				0	

郵 券 等 受 払 調

(令和 7 年 2 月 28 日現在)

(本校)

(単位：枚、円)

区分	種 類	5年度						6年度								摘要
		繰 越		受 入		払 出		繰 越		受 入		払 出		差引現在高		
		枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	
郵券	120 円券	21	2,520	280	33,600	161	19,320	140	16,800	100	12,000	80	9,600	160	19,200	通信用
〃	110 円券							0	0	110	12,100	81	8,910	29	3,190	通信用
〃	84 円券	103	8,652	250	21,000	336	28,224	17	1,428	100	8,400	100	8,400	17	1,428	通信用
〃	26 円券							0	0	40	1,040	30	780	10	260	通信用
〃	10 円券	40	400	250	2,500	171	1,710	119	1,190	220	2,200	98	980	241	2,410	通信用
〃	1 円券	23	23	0	0	22	22	1	1	50	50	18	18	33	33	通信用
計			11,595		57,100		49,276		19,419		35,790		28,688		26,521	

(令和 7 年 2 月 28 日現在)

(磐田分校)

(単位：枚、円)

区分	種 類	5年度						6年度								摘要
		繰 越		受 入		払 出		繰 越		受 入		払 出		差引現在高		
		枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	
郵券	120 円券	42	5,040	100	12,000	98	11,760	44	5,280	150	18,000	129	15,480	65	7,800	通信用
〃	110 円券							0	0	110	12,100	4	440	106	11,660	通信用
〃	84 円券	24	2,016	130	10,920	96	8,064	58	4,872	50	4,200	108	9,072	0	0	通信用
〃	26 円券							0	0	40	1,040	40	1,040	0	0	通信用
〃	10 円券	77	770	120	1,200	124	1,240	73	730	220	2,200	175	1,750	118	1,180	通信用
〃	1 円券	94	94	0	0	14	14	80	80	4	4	84	84	0	0	通信用
計			7,920		24,120		21,078		10,962		37,544		27,866		20,640	

(令和 7 年 2 月 28 日現在)

(城北分校)

(単位：枚、円)

区分	種 類	5年度						6年度								摘要
		繰 越		受 入		払 出		繰 越		受 入		払 出		差引現在高		
		枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	
郵券	120 円券	57	6,840	150	18,000	159	19,080	48	5,760	100	12,000	133	15,960	15	1,800	通信用
〃	84 円券	19	1,596	500	42,000	424	35,616	95	7,980	300	25,200	373	31,332	22	1,848	通信用
〃	10 円券	100	1,000	300	3,000	194	1,940	206	2,060	100	1,000	252	2,520	54	540	通信用
〃	1 円券	38	38	0	0	12	12	26	26	0	0	8	8	18	18	通信用
〃	26 円券							0	0	255	6,630	236	6,136	19	494	通信用
〃	110 円券							0	0	147	16,170	5	550	142	15,620	通信用
〃	140 円券							0	0	160	22,400	39	5,460	121	16,940	通信用
計			9,474		63,000		56,648		15,826		83,400		61,966		37,260	

材 料 品 受 払 調

令和 6 年度

(本校)

(令和 7 年 2 月 28 日現在)

品名 区分	令和 5 年度						令和 6 年度								摘要
	繰 越		受 入		払 出		繰 越		受 入		払 出		差引現在高		
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	
檜板	0 枚	0	222	190,707	222	190,707	0	0	123	56,265	123	56,265	0	0	
籐芯材	0 kg	0	9	123,328	9	123,328	0	0	10	99,520	10	99,520	0	0	
釉薬	0 個	0	3	47,520	3	47,520	0	0	2	47,520	2	47,520	0	0	
粘土	0 袋	0	14	60,060	14	60,060	0	0	11	52,800	11	52,800	0	0	
布	0 m	0	151	188,079	151	188,079	0	0	125	129,698	125	129,698	0	0	
毛糸	0 玉	0	370	132,055	370	132,055	0	0	31	11,726	31	11,726	0	0	
クラフトバンド	0 本	0	770	15,580	770	15,580	0	0	22	21,647	22	21,647	0	0	
成牛タンロー	0 デシ	0	1,182	189,120	1,182	189,120	0	0	0	0	0	0	0	0	
牛革ヴィンセント	0 デシ	0	249	32,121	249	32,121	0	0	0	0	0	0	0	0	
革	0 デシ	0	0	0	0	0	0	0	1,679	197,670	1,679	197,670	0	0	
ホワイットウッド	0 本	0	20	17,380	20	17,380	0	0	20	18,480	20	18,480	0	0	
ホワイットアッシュ	0 本	0	0	0	0	0	0	0	5	49,896	5	49,896	0	0	
ウォールナット	0 本	0	0	0	0	0	0	0	8	144,980	8	144,980	0	0	
杉	0 本	0	180	24,420	180	24,420	0	0	120	25,080	120	25,080	0	0	
ベニヤ	0 枚	0	30	3,630	30	3,630	0	0	15	3,795	15	3,795	0	0	
ふきん	0 枚	0	50	5,500	50	5,500	0	0	0	0	0	0	0	0	
計		0		1,029,500		1,029,500		0		859,077		859,077		0	

材 料 品 受 払 調

(磐田分校)

令和 6 年度
(令和 7 年 2 月 28 日現在)

品名 区分	令和 5 年度						令和 6 年度								摘要
	繰 越		受 入		払 出		繰 越		受 入		払 出		差引現在高		
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	
布・シーチング	0 ^m	0	21	20,304	21	20,304	0	0	106	9,424	106	9,424	0	0	
クラフトバンド	0 ^m	0	650	20,005	650	20,005	0	0	7	18,150	7	18,150	0	0	
寄せ木アート	0 ^枚	0	20	27,300	20	27,300	0	0	0	0	0	0	0	0	
デッキ材	0 ^本	0	8	6,384	8	6,384	0	0	0	0	0	0	0	0	
ホワイトウッド	0 ^本	0	6	1,668	6	1,668	0	0	0	0	0	0	0	0	
杉板材	0 ^枚	0	4	8,720	4	8,720	0	0	3	6,840	3	6,840	0	0	
ヒノキ	0 ^枚	0	0	0	0	0	0	0	5	15,360	5	15,360	0	0	
寄木カラーウッド	0 ^枚	0	0	0	0	0	0	0	3	5,100	3	5,100	0	0	
S P F	0 ^本	0	4	7,120	4	7,120	0	0	0	0	0	0	0	0	
計		0		91,501		91,501		0		54,874		54,874		0	

(城北分校)

令和 6 年度
(令和 7 年 2 月 28 日現在)

品名 区分	令和 5 年度						令和 6 年度								摘要
	繰 越		受 入		払 出		繰 越		受 入		払 出		差引現在高		
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	
ブリキ板	0枚	0	8	22,880	8	22,880	0	0	6	17,160	6	17,160	0	0	
ガルバリウム板	0枚	0	2	7,040	2	7,040	0	0	5	18,150	5	18,150	0	0	
布	0m	0	33	36,170	33	36,170	0	0	81	99,882	81	99,882	0	0	
牛革ヴィンセント	0デシ	0	1,263	162,927	1,263	162,927	0	0	1,485	190,080	1,485	190,080	0	0	
磁石	0個	0	100	1,630	100	1,630	0	0	0	0	0	0	0	0	
計		0		230,647		230,647		0		325,272		325,272		0	

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

節名	会計	款	項	目	執行済額 (円)		
					4年度	5年度	左のうち、 4年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般会計	教育費	高等学校費	高等学校管理費		99,000	
	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		62,899,000	
	一般会計	教育費	学校教育費	健康体育費		15,266,628	
計					97,811,452	78,264,628	0
(14) 工事 請負費	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費		15,495,700	
計					19,030,000	15,495,700	0
(16) 公有財産 購入費							
計					0	0	0
(17) 備品 購入費	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費		2,245,700	
	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		4,393,438	
計					4,853,310	6,639,138	0
(18) 負担金、 補助及 び交付金	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		36,200	
計					29,200	36,200	0
(21) 補償、補填 及び賠償 金							
計					0	0	0

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和7年2月28日現在)

節名	会計	款	項	目	執行済額 (円)	
						うち、5年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費	697,400	
	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	53,901,903	
	一般会計	教育費	学校教育費	健康体育費	11,776,160	
計					66,375,463	0
(14) 工事 請負費	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費	3,157,000	
計					3,157,000	0
(16) 公有財産 購入費						
計					0	0
(17) 備品 購入費	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	2,258,300	
計					2,258,300	0
(18) 負担金、 補助金及 び交付金	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	31,000	
計					31,000	0
(21) 補償、補填 及び賠償 金						
計					0	0

整理 番号	委託業務名	受 託 者	当初設計金額	委 託 料 に 契約金額		
				当初額	変 増 減 更 額	計
			円	円	円	円
1	通学バス 輸送業務	ラビット 急行株式会社	183,160,890	158,779,500	3,732,126	162,511,626
2	通学バス（1学 期登校便）輸送 業務委託	ラビット 急行株式会社	10,279,000	10,278,400	0	10,278,400
3	給食業務	株式会社ミカ サ	50,345,714	48,694,800	618,238	49,313,038
4	給食業務	株式会社ミカ サ	63,360,000	41,294,000	0	41,294,000
5	産業廃棄物収集 運搬業務	日本産業廃棄 物処理株式会 社	24,750	24,750	0	24,750
6	産業廃棄物処分 業務	株式会社エス アール	16,500	16,500	0	16,500
7	産業廃棄物収集 運搬処分業務	株式会社リサ イクルクリー ン	198,000	198,000	0	198,000
8	産業廃棄物収集 運搬処分業務	株式会社リサ イクルクリー ン	149,050	149,050	0	149,050
9	産業廃棄物収集 運搬処分業務	株式会社リサ イクルクリー ン	198,000	198,000	0	198,000
10	産業廃棄物収集 運搬業務	日本産業廃棄 物処理株式会 社	28,050	28,050	0	28,050
11	産業廃棄物処分 業務	J & T環境 株式会社	18,700	18,700	0	18,700

関する調					(令和5年度)
契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
一般	3.4.1 ～ 6.3.31	累計金額	(110,895,116)	通学・校外活動 児童・生徒送迎 バス輸送業務	本校 3長期
		5.5.31	4,301,374		
		5.6.30	4,301,374		
		5.7.31	4,301,374		
		5.8.31	4,301,374		
		5.9.29	4,301,374		
		5.10.31	4,301,374		
		5.11.30	4,301,374		
		5.12.27	4,301,374		
		6.1.31	4,301,374		
		6.2.29	4,301,374		
		6.3.29	4,301,374		
		6.4.26	4,301,396		
		小計	51,616,510	(N:12月)	
随契	5.4.1 ～ 5.7.31	5.5.31	2,252,800	通学 児童・生徒送迎	本校 随契2号 (不適)
		5.6.30	2,816,000		
		5.7.31	3,097,600		
		5.8.31	2,112,000		
		小計	10,278,400	(N:4月)	
一般	2.8.6 ～ 5.7.31	累計金額	(43,747,904)	学校給食業務	本校 2長期
		5.5.31	1,391,282		
		5.6.30	1,391,282		
		5.7.31	1,391,282		
		5.8.31	1,391,288		
		小計	5,565,134	(N:12月)	
一般	5.8.3 ～ 8.7.31	5.9.29	1,147,355	学校給食業務	本校 5長期
		5.10.31	1,147,047		
		5.11.30	1,147,047		
		5.12.27	1,147,047		
		6.1.31	1,147,047		
		6.2.29	1,147,047		
		6.3.29	1,147,047		
		6.4.26	1,147,047		
		小計	9,176,684	(N:12月)	
随契	5.5.8 ～ 5.9.29	5.6.16	24,750	混合電池の収集運搬業務 (N:混合電池50kg)	本校 随契1号 (少額)
随契	5.5.8 ～ 5.9.29	5.6.28	16,500	混合電池の処分業務 (N:混合電池50kg)	本校 随契1号 (少額)
随契	5.6.23 ～ 5.10.20	5.9.8	198,000	廃プラスチック類等混合廃棄物の収集運搬処分業務 (N:フックロール8.0㎡×2台)	本校 随契1号 (少額)
随契	5.6.28 ～ 5.10.31	5.9.8	149,050	廃プラスチック類等混合廃棄物の収集運搬処分業務 (N:フックロール8.0㎡×1台+3.5㎡×1台)	磐田分校 随契1号 (少額)
随契	5.7.24 ～ 5.11.30	5.10.31	198,000	廃プラスチック類等混合廃棄物の収集運搬処分業務 (N:フックロール8.0㎡×2台)	本校 随契1号 (少額)
随契	5.10.30 ～ 6.3.29	5.12.22	28,050	体温計・卓上血圧計(水銀入り)の収集運搬業務 (N:体温計3本+卓上血圧計1台)	本校 随契1号 (少額)
随契	5.10.30 ～ 6.3.29	6.3.6	18,700	体温計・卓上血圧計(水銀入り)の処分業務 (N:体温計3本+卓上血圧計1台)	本校 随契1号 (少額)

委託料に

整理 番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額		
				当初額	増減額	計
12	事業系一般廃棄物収集運搬処分業務	有限会社コスモグリーン庭好	191,400	191,400	0	191,400
13	産業廃棄物収集運搬処分業務	株式会社リサイクルクリーン	99,000	99,000	0	99,000
14	産業廃棄物収集運搬業務	日本産業廃棄物処理株式会社	28,330	28,330	0	28,330
15	産業廃棄物処分業務	J & T 環境株式会社	28,330	28,330	0	28,330
16	不燃ごみ収集運搬処分業務	株式会社三共	25,410	25,410	0	25,410
17	産業廃棄物収集運搬処分業務	株式会社太洋サービス	69,300	69,300	0	69,300
18	産業廃棄物収集運搬処分業務	株式会社太洋サービス	69,300	69,300	0	69,300
19	防鼠防虫業務	株式会社帝装化成 浜松営業所	459,800	459,800	0	459,800
20	自動扉保守点検業務	中日本オート・ドア株式会社	23,980	23,980	0	23,980
	事務関係計	20件				

関 する 調 (令和5年度)

契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
随契	5.8.3 ～ 5.10.6	5.9.8	191,400	木くずの収集運搬・発生材の処分業務 (N:木くず4t/12m ³ ×2車+発生材4t/12m ³ ×2車)	本校 随契1号 (少額)
随契	5.11.6 ～ 6.3.29	6.2.26	99,000	廃プラスチック類等混合廃棄物の収集運搬処分業務 (N:フックロール8.0m ³ ×2台)	本校 随契1号 (少額)
随契	5.12.8 ～ 6.3.29	6.2.19	28,330	廃蛍光管の収集運搬業務 (N:40w直管20kg+20w直管10kg)	本校 随契1号 (少額)
随契	5.12.8 ～ 6.3.29	6.3.13	28,330	廃蛍光管の処分業務 (N:40w直管20kg+20w直管10kg)	本校 随契1号 (少額)
随契	5.4.11 ～ 6.3.29	5.5.31 5.6.30 5.7.31 5.8.31 5.10.31 5.11.30 5.12.27 6.1.31 6.2.29 6.3.29 6.4.26 小計	2,310 2,310 2,310 2,310 2,310 2,310 2,310 2,310 2,310 2,310 2,310 2,310 25,410	不燃ごみ収集運搬 処分業務 (N:11月×1回)	本校 随契1号 (少額)
随契	5.6.12 ～ 5.10.13	5.9.15	69,300	グリストラップ汚泥の 収集運搬処分業務 (N:グリストラップ汚泥800L×1式)	本校 随契1号 (少額)
随契	5.11.17 ～ 6.3.29	6.3.11	69,300	グリストラップ汚泥の 収集運搬処分業務 (N:グリストラップ汚泥800L×1式)	本校 随契1号 (少額)
随契	5.4.14 ～ 6.3.29	5.10.31 6.4.26 小計	229,900 229,900 459,800	防鼠防虫(点検等) (N:12回) 防虫(薬剤散布) (N:2回)	浜松聴覚特別支援、浜松 視覚特別支援、浜名特別 支援、浜北特別支援、浜 松工業高校、浜名高校 随契1号(少額)
随契	5.4.21 ～ 6.3.29	5.7.31 5.10.31 6.1.31 6.4.30 小計	5,995 5,995 5,995 5,995 23,980	自動扉保守点検業務 (N:4回)	本校 磐田分校 随契1号 (少額)
			78,264,628		

委 託 料 金

整理 番号	委託業務名	受 託 者	当初設計金額	契約金額		
				当初額	変 増 減 更 額	計
参考 1	警備業務	総合警備保障 株式会社静岡 支社		6,705,600	0	6,705,600
参考 2	消防用設備等 保守点検業務	静岡県消防設 備保守点検業 協同組合		12,320,000	1,239	12,321,239
参考 3	自家用電気工作 物保安管理業務	遠鉄アシスト 株式会社		2,588,520	0	2,588,520
参考 4	可燃物収集運搬 処分業務	環境保全株式 会社		収集運搬料 @660円/回 処分料 @13.2円/kg	0	収集運搬料 @660円/回 処分料 @13.2円/kg
参考 5	プール浄化装置 保守点検業務	清化工業株式 会社		998,800	0	998,800
参考 6	定期点検業務	有限会社いま 総合設計		4,290,000	0	4,290,000
参考 7	警備業務	総合警備保障 株式会社静岡 支社		17,166,600	0	17,166,600
参考 8	消防用設備等 保守点検業務	静岡県消防設 備保守点検業 協同組合		8,850,600	0	8,850,600
参考 9	可燃物収集運搬 処分業務	株式会社ハシ モト		収集運搬料 @5,830円/回 処分料 @17.6円/kg 収納容器料 @1,100円/月	0	収集運搬料 @5,830円/回 処分料 @17.6円/kg 収納容器料 @1,100円/月
参考 10	ガスヒートポン プ点検業務	ヤマザキ・ シー・エー株式 会社		3,575,000	0	3,575,000
参考 11	定期点検業務	有限会社コー セイ産業		1,975,600	0	1,975,600
参考 12	警備業務	セコム株式会 社		10,164,000	0	10,164,000
参考 13	定期点検業務	有限会社山口 一級建築士事 務所		2,640,000	0	2,640,000
	計	13件				

関する調				(令和5年度)	
契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
	1. 10. 1 ～ 6. 9. 30			警備業務 (N : 12月)	浜松北高校 本校
	5. 4. 1 ～ 6. 3. 31			消防設備等保守点検業務 (機器 1 回) (機器・総合 1 回)	浜松商業高校 本校
	5. 4. 1 ～ 6. 3. 31			自家用電気工作物保安 管理業務 (月次点検 N : 5 月) (年次点検 N : 1 回)	浜松湖東高校 本校
	5. 4. 10 ～ 6. 3. 29			可燃物収集運搬処分 業務 (N : 12月 220回)	浜松大平台高校 本校 単価契約
	5. 4. 7 ～ 5. 11. 30			プール浄化装置保守 点検業務 (N : 2 回)	浜松東高校 本校
	5. 9. 11 ～ 6. 1. 31			定期点検業務 (A : 設備6, 876. 25㎡)	湖西高校 本校
	1. 10. 1 ～ 6. 9. 30			警備業務 (N : 12月)	磐田南高校 磐田分校
	5. 4. 1 ～ 6. 3. 31			消防施設等点検業務 (機器 1 回) (機器・総合 1 回)	磐田農業高校 磐田分校
	5. 4. 10 ～ 6. 3. 29			可燃物収集運搬処分 業務 (N : 12月 87回)	磐田西高校 磐田分校 単価契約
	5. 7. 10 ～ 5. 12. 22			ガスヒートポンプ 点検業務 (N : 2 回)	磐田北高校 磐田分校
	6. 1. 10 ～ 6. 3. 29			定期点検業務 (A : 設備1, 516. 89㎡)	磐田北高校 磐田分校
	1. 10. 1 ～ 6. 9. 30			警備業務 (N : 12月)	浜松工業高校 城北分校
	5. 11. 24 ～ 6. 3. 26			定期点検業務 (A : 設備1, 389. 00㎡)	浜北西高校 城北分校

委託料に

整理 番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額		
				当初額	変更 増減額	計
1	通学バス 輸送業務	ラビット 急行株式会社	212,544,200	190,077,800	0	190,077,800
2	給食業務	株式会社ミカサ	63,360,000	41,294,000	22,968	41,316,968
3	城北分校物品移 設業務	浜名梱包輸送 株式会社	425,700	425,700	0	425,700
4	外壁打診調査業 務	株式会社竹下 一級建築士事 務所	271,700	271,700	0	271,700
5	事業系一般廃棄 物収集運搬処分 業務	有限会社コス モグリーン庭 好	92,950	92,950	0	92,950
6	産業廃棄物収集 運搬処分業務	株式会社リサ イクルクリー ン	297,000	297,000	0	297,000
7	産業廃棄物収集 運搬処分業務	株式会社リサ イクルクリー ン	149,050	149,050	0	149,050
8	産業廃棄物収集 運搬処分業務	株式会社リサ イクルクリー ン	396,000	396,000	0	396,000
9	産業廃棄物収集 運搬処分業務	株式会社エム エスケイ	21,560	21,560	0	21,560
10	産業廃棄物収集 運搬処分業務	株式会社太洋 サービス	35,068	35,068	0	35,068
11	事業系一般廃棄 物収集運搬処分 業務	有限会社コス モグリーン庭 好	92,950	92,950	0	92,950

(令和6年度)
(令和6年2月28日現在)

関 する 調

契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
一般	6.4.1 ～ 9.3.31	6.5.31 6.6.28 6.7.31 6.8.30 6.9.30 6.10.31 6.11.29 6.12.26 7.1.31 7.2.28 小計	5,279,934 5,279,934 5,279,934 5,279,934 5,279,934 5,279,934 5,279,934 5,279,934 5,279,934 5,279,934 52,799,340	通学・校外活動 児童・生徒送迎 バス輸送業務 (N:12月)	本校 6長期
一般	5.8.3 ～ 8.7.31	累計金額 6.5.31 6.6.28 6.7.31 6.8.30 6.9.30 6.10.31 6.11.29 6.12.26 7.1.31 7.2.28 小計	(9,176,684) 1,147,047 1,147,047 1,147,047 1,147,047 1,147,047 1,147,047 1,147,047 1,147,047 1,147,047 1,147,047 11,470,470	学校給食業務 (N:12月)	本校 5長期
随契	6.6.18 ～ 6.9.13	6.9.26	425,700	物品移設業務 (N:1回)	城北分校 随契1号 (少額)
随契	6.9.24 ～ 6.11.29	6.12.13	271,700	外壁打診調査業務 (N:1回)	本校 随契1号 (少額)
随契	6.8.2 ～ 6.10.31	6.8.26	92,950	木くずの収集運搬・発生 材の処分業務 (N:木くず2tバッカー×1車+発生材2tバッカー×1車)	本校 随契1号 (少額)
随契	6.6.7 ～ 6.10.31	6.10.1	297,000	廃プラスチック類等混合廃棄物 の収集運搬処分業務 (N:フックロール8.0㎡×3台)	本校 随契1号 (少額)
随契	6.6.27 ～ 6.10.31	6.10.3	149,050	廃プラスチック類等混合廃棄物 の収集運搬処分業務 (N:フックロール8.0㎡×1台+3.5㎡×1台)	磐田分校 随契1号 (少額)
随契	6.8.2 ～ 7.1.10	6.10.28	396,000	廃プラスチック類等混合廃棄物 の収集運搬処分業務 (N:フックロール8.0㎡×4台)	本校 随契1号 (少額)
随契	6.10.31 ～ 7.3.28	6.12.24	21,560	廃蛍光管の収集運搬処分 業務 (N:40w直管20kg+20w直管10kg)	本校 随契1号 (少額)
随契	6.11.19 ～ 7.3.28	7.1.31	35,068	電池の収集運搬処分業務 (N:アルカリ・マンガン乾電池2kg+リチウム電池(ボタン電池)1kg)	本校 随契1号 (少額)
随契	6.11.29 ～ 7.2.28	7.1.20	92,950	木くずの収集運搬・発生 材の処分業務 (N:木くず2tバッカー×1車+発生材2tバッカー×1車)	本校 随契1号 (少額)

委託料に

整理 番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額		
				当初額	変更 増減額	計
12	不燃ごみ収集 運搬処分業務	株式会社三共	25,410	25,410	0	25,410
13	産業廃棄物収集 運搬処分業務	株式会社太洋 サービス	69,300	69,300	0	69,300
14	防鼠防虫業務	株式会社帝装 化成 浜松営業所	551,100	551,100	-3,080	548,020
15	自動扉保守点検 業務	中日本オー ト・ドア株式 会社	23,980	23,980	0	23,980
	事務関係計	15件				
参考 1	警備業務	総合警備保障 株式会社静岡 支社		6,705,600	0	6,705,600
参考 2	警備業務	総合警備保障 株式会社静岡 支社		8,448,000	0	8,448,000
参考 3	消防用設備等 保守点検業務	静岡県消防設 備保守点検業 協同組合		12,650,000	859	12,650,859
参考 4	自家用電気工作 物保安管理業務	遠鉄アシスト 株式会社		2,786,520	0	2,786,520
参考 5	可燃物収集運搬 処分業務	環境保全株式 会社		収集運搬料 @715円/回 処分料 @13.2円/kg	0	収集運搬料 @715円/回 処分料 @13.2円/kg
参考 6	プール浄化装置 保守点検業務	清化工業株式 会社		998,800	-17,050	981,750
参考 7	定期点検業務	有限会社いま 総合設計		3,784,000	0	3,784,000
参考 8	警備業務	総合警備保障 株式会社静岡 支社		17,166,600	0	17,166,600
参考 9	警備業務	総合警備保障 株式会社静岡 支社		13,602,600	0	13,602,600
参考 10	消防用設備等 保守点検業務	静岡県消防設 備保守点検業 協同組合		9,251,000	0	9,251,000

(令和6年度)
(令和6年2月28日現在)

関 する 調

契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
随契	6.4.12 ～ 7.3.31	6.5.31 6.6.28 6.7.31 6.8.30 6.9.30 6.10.31 6.11.29 6.12.26 7.1.31 7.2.28 小計	2,310 2,310 2,310 2,310 2,310 2,310 2,310 2,310 2,310 2,310 23,100	不燃ごみ収集運搬 処分業務 (N:11月×1回)	本校 随契1号 (少額)
随契	6.7.2 ～ 6.10.31	6.9.25	69,300	グリストラップ汚泥の 収集運搬処分業務 (N:グリストラップ汚泥800L×1式)	本校 随契1号 (少額)
随契	6.4.12 ～ 7.3.31	6.10.31	275,550	防鼠防虫(点検等) (N:12回) 防虫(薬剤散布) (N:2回)	浜松聴覚特別支援、浜松 視覚特別支援、浜名特別 支援、浜北特別支援、浜 松工業高校、浜名高校 随契1号(少額)
随契	6.4.15 ～ 7.3.31	6.7.30 6.10.8 7.1.23 小計	5,995 5,995 5,995 17,985	自動扉保守点検業務 (N:4回)	本校 磐田分校 随契1号 (少額)
			66,437,723		
	1.10.1 ～ 6.9.30			警備業務(N:12月)	浜松北高校 本校
	6.10.1 ～ 11.9.30			警備業務(N:12月)	浜松北高校 本校
	6.4.1 ～ 7.3.31			消防設備等保守点検業務 (機器1回) (機器・総合1回)	浜松商業高校 本校
	6.4.1 ～ 7.3.31			自家用電気工作物保安 管理業務 (月次点検 N:5月) (年次点検 N:1回)	浜松湖東高校 本校
	6.4.8 ～ 7.3.31			可燃物収集運搬処分 業務 (N:12月 220回)	浜松大平台高校 本校 単価契約
	6.4.8 ～ 6.12.27			プール浄化装置保守 点検業務(N:2回)	浜松東高校 本校
	6.8.2 ～ 7.2.28			定期点検業務 (A:設備6,876.25㎡ 建築7,128.54㎡)	浜松南高校 本校
	1.10.1 ～ 6.9.30			警備業務(N:12月)	磐田南高校 磐田分校
	6.10.1 ～ 11.9.30			警備業務(N:12月)	磐田南高校 磐田分校
	6.4.1 ～ 7.3.31			消防施設等点検業務 (機器1回) (機器・総合1回)	磐田農業高校 磐田分校

委託料に

整理 番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額		
				当初額	変 増減	更 額計
参考 11	可燃物収集運搬 処分業務	株式会社ハシ モト		収集運搬料 @5,885円/回 処分料 @17.6円/kg 収納容器料 @1,100円/月		収集運搬料 @5,885円/回 処分料 @17.6円/kg 収納容器料 @1,100円/月
参考 12	ガスヒートポン プ点検業務	ヤマザキ・ シー・エー株式 会社		3,696,000	16,500	3,679,500
参考 13	定期点検業務	有限会社コー セイ産業		3,063,390	0	3,063,390
参考 14	警備業務	セコム株式会 社		10,164,000	0	10,164,000
参考 15	警備業務	セコム株式会 社		14,256,000	0	14,256,000
参考 16	定期点検業務	有限会社山口 一級建築士事 務所		2,200,000	0	2,200,000
	計	16件				

(令和6年度)
(令和6年2月28日現在)

関 する 調

契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
	6.4.10 ～ 7.3.31			可燃物収集運搬処分 業務 (N:12月 84回)	磐田西高校 磐田分校 単価契約
	6.7.23 ～ 7.1.31			ガスヒートポンプ 点検業務 (N:2回)	磐田北高校 磐田分校
	6.11.1 ～ 7.2.28			定期点検業務 (A:設備1,516.89㎡ 建築1,516.89㎡)	磐田農業高校 磐田分校
	1.10.1 ～ 6.9.30			警備業務 (N:12月)	浜松工業高校 城北分校
	6.10.1 ～ 11.9.30			警備業務 (N:12月)	浜松工業高校 城北分校
	6.11.22 ～ 7.3.24			定期点検業務 (A:設備1,389.00㎡)	浜北西高校 城北分校

負担金支出調

0000232139 浜松特別支援学校

令和 5 年度

整理 番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	特別管理産業廃棄物責任者講習会負担金	公益財団法人日本産業廃棄物処理振興センター	産業廃棄物処理法第12条の2第8項	特別産業廃棄物管理責任者の資格取得	13,200	R 5. 6. 27
2	全国特別支援学校知的障害教育校長研究大会参加費	第46回全国特別支援学校知的障害教育校長研究大会北海道(札幌)・北海道地区研究協議会大会実行委員長	大会案内	第46回全国特別支援学校知的障害教育校長研究大会	3,000	R 5. 7. 28
3	令和 5 年度東海地区特別支援学校知的障害教育校長会年会費	東海地区特別支援学校知的障害教育校長会会長	東海地区特別支援学校知的障害教育校長会規約付則 5	教育の充実・改善の推進及び教育上の調査・研究	5,000	R 5. 7. 28
4	令和 5 年度全国特別支援学校知的障害教育校長会会費	全国特別支援学校知的障害教育校長会会長	全国特別支援学校知的障害教育校長会会則第15条	学校の管理運営に関する調査・研究	15,000	R 5. 10. 16
	計	4 件			36,200	

負担金支出調

0000232139 浜松特別支援学校

令和6年度

(令和7年2月28日現在)

整理 番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	甲種防火管理新規講習受講料	一般財団法人 日本防火・防災協会	一般財団法人 日本防火・防災協会要項	甲種防火管理資格取得	8,000	R 6. 6. 25
2	令和6年度全国特別支援学校知的障害教育校長会会費	全国特別支援学校知的障害教育校長会会長	全国特別支援学校知的障害教育校長会会則第15条	学校の管理運営に関する調査・研究	15,000	R 6. 7. 24
3	第47回全国特別支援学校知的障害教育校長研究大会参加費	第47回全国特別支援学校知的障害教育校長研究大会四国（香川）大会実行委員長	大会案内	第47回全国特別支援学校知的障害教育校長研究大会	3,000	R 6. 7. 24
4	令和6年度東海地区特別支援学校知的障害教育校長会年会費	東海地区特別支援学校知的障害教育校長会会長	東海地区特別支援学校知的障害教育校長会規約付則5	教育の充実・改善の推進及び教育上の調査・研究	5,000	R 6. 8. 9
	計	4 件			31,000	

建 築

整理 番号	予算科目	工事名	工事箇所	当初設計 金額	契約金額	
					当初額	変更増減額
1	教育管理費	静岡県立浜松特別支援学校磐田分校空調移転・設置工事	磐田市西貝塚地内	7,744,000	7,700,000	0
2	教育管理費	静岡県立浜松特別支援学校消火栓漏水配管修繕工事	浜松市中央区江之島町地内	4,620,000	4,532,000	0
3	教育管理費	静岡県立浜松特別支援学校食堂空調更新工事	浜松市中央区江之島町地内	2,167,000	2,167,000	0
4	教育管理費	静岡県立浜松特別支援学校プール濾過器・滅菌機改修工事	浜松市中央区江之島町地内	1,100,000	1,096,700	0
	合計		4件	15,631,000	15,495,700	0
1	(参考)	浜松特別支援学校磐田分校校舎屋上防水修繕他工事	磐田市西貝塚地内	28,336,000	26,400,000	0

工 事 調

(令和 5 年度)

	契約締結方法	受注者	着手 完成（予定） 年月日	支出済額	工事概要	公有財産台帳	摘要
計							
7,700,000	指名	シンワ設備株式会社	R5. 11. 28 R6. 3. 18	3,080,000 4,620,000	空調設備更新	済	R5. 10. 30 (前金R5. 12. 12) R6. 4. 26
4,532,000	指名	日興電気通信株式会社	R6. 1. 18 R6. 3. 21	4,532,000	消火栓配管更新・バルブ更新	-	R5. 12. 7 R6. 4. 26
2,167,000	随契	シンワ設備株式会社	R5. 10. 5 R5. 12. 25	2,167,000	空調設備更新	済	R5. 9. 7 R6. 1. 31 随契 1 号（少額）
1,096,700	随契	清化工業株式会社	R6. 1. 22 R6. 3. 29	1,096,700	プール濾過器循環ポンプ交換等	-	R5. 12. 26 R6. 4. 22 随契 1 号（少額）
15,495,700				15,495,700			
26,400,000	一般競争	株式会社イトー	R5. 7. 14 R5. 11. 24	26,400,000	屋上防水・塗装工事等	-	本庁執行 (袋井土木事務所)

建 築

整理 番号	予算科目	工事名	工事箇所	当初設計 金額	契約金額	
					当初額	変更増減額
1	教育管理費	静岡県立浜松特別支援学校排煙窓オペレーター更新工事	浜松市中央区江之島町地内	957,000	957,000	0
2	教育管理費	静岡県立浜松特別支援学校高圧ケーブル更新工事	浜松市中央区江之島町地内	1,420,000	1,419,000	0
3	教育管理費	静岡県立浜松特別支援学校誘導灯更新工事	浜松市中央区江之島町地内	770,000	770,000	0
4	教育管理費	静岡県立浜松特別支援学校城北分校職員室改修工事	浜松市中央区住吉地内	2,464,000	2,266,000	△ 66,000
	合計		4件	5,611,000	5,412,000	△ 66,000
1	(参考)	浜松特別支援学校他体育館照明設備更新工事	浜松市中央区江之島町地内他	22,913,000	22,880,000	△ 198,000

工 事 調

(令和6年度)
(令和 7 年 2 月 28 日)

	契約締結方法	受注者	着手 完成（予定） 年月日	支出済額	工事概要	公有財産台帳	摘要
計							
957,000	随契	株式会社林工組	R6. 7. 4 R6. 8. 7	957,000	排煙窓 オペ レー ター更 新	－	R6. 6. 11 随契 1 号（少額） R6. 9. 2
1,419,000	指名	栄電気工業株式 会社	R6. 12. 4 (R7. 3. 19)		高圧 ケーブ ル更新	－	R6. 11. 28
770,000	随契	日興電気通信株式 会社	R6. 12. 13 (R7. 3. 19)		誘導灯 更新	－	R6. 12. 6 随契 1 号（少額）
2,200,000	指名	株式会社ヤガワ	R6. 6. 18 R6. 8. 26	2,200,000	城北分 校校職 員室改 修	－	R6. 4. 2 R6. 9. 20
5,346,000				3,157,000			
22,682,000	一般	株式会社鈴木電 工	R6. 6. 18 R6. 10. 4	22,682,000	体育館 照明設 備更新	－	本庁執行 （浜松土木 事務所） （対象校： 浜松特別支援、 浜松聴覚特別支援 浜松視覚特別支援）

公 有 財 産 調 (本校)

(令和5年度)

区分	令和5年3月31日 現 在		増		減		令和6年3月31日 現 在		摘要
	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	
行政財産		千円 496,965		千円 0		千円 22,853		千円 474,112	
土地	m ² 16,551.18	265,032					m ² 16,551.18	265,032	
立木竹	本 85	1,497					本 85	1,497	
建物	m ² <u>3,425.41</u> 7,012.12	74,950				22,853	m ² <u>3,425.41</u> 7,012.12	52,097	
工作物	個 93	155,486					個 93	155,486	
公有財産 に準ずる もの		464						464	
電話 加入権	6	464					6	464	

様式第22号

公 有 財 産 調 (磐田)

(令和5年度)

区分	令和5年3月31日 現 在		増		減		令和6年3月31日 現 在		摘要
	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	
行政財産		千円 49,789		千円 4,330		千円 5,022		千円 49,097	
建物	m ² <u>819.25</u> 1,525.63	22,373					m ² <u>819.25</u> 1,525.63	17,351	
工作物	個 9	27,416	1	4,330			個 10	31,746	空調設備
公有財産 に準ずる もの		80						80	
電話 加入権	1	80					1	80	

公 有 財 産 調 (城北)

(令和 5 年度)

区分	令和5年3月31日 現 在		増		減		令和6年3月31日 現 在		摘要
	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	
行政財産		千円 158,608		千円 0		千円 6,239		千円 152,369	
建物	m ² <u>820.44</u> 1,389.00	139,337				6,239	m ² <u>820.44</u> 1,389.00	133,098	
工作物	個 15	19,271					個 15	19,271	
公有財産 に準ずる もの		30						30	
電話 加入権	1	30					1	30	

公 有 財 産 調 (本校)

(令和6年度)

(令和7年2月28日現在)

区分	令和6年3月31日 現 在		増		減		令和7年2月28日 現 在		摘要
	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	
行政財産		千円 474,112		千円 0		千円 132		千円 473,980	
土地	m ² 16,551.18	265,032					m ² 16,551.18	265,032	
立木竹	本 85	1,497			7	132	本 78	1,365	
建物	m ² <u>3,425.41</u> 7,012.12	52,097	<u>307.91</u> 534.79	0			m ² <u>3,733.32</u> 7,546.91	52,097	仮設校舎県有
工作物	個 93	155,486	1	0			個 94	155,486	仮設校舎付帯設備県有
公有財産に準ずるもの		464						464	
電話加入権	6	464					6	464	

様式第22号

公 有 財 産 調 (磐田)

(令和6年度)

(令和7年2月28日現在)

区分	令和6年3月31日 現 在		増		減		令和7年2月28日 現 在		摘要
	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	
行政財産		千円 54,119		千円 0		千円 5,022		千円 49,097	
建物	m ² <u>819.25</u> 1,525.63	22,373				5,022	m ² <u>819.25</u> 1,525.63	17,351	
工作物	個 10	31,746					個 10	31,746	
公有財産に準ずるもの		80						80	
電話加入権	1	80					1	80	

公 有 財 産 調 (城北)

(令和6年度)

(令和7年2月28日現在)

区分	令和6年3月31日 現 在		増		減		令和7年2月28日 現 在		摘要
	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	
行政財産		千円 158,608		千円 0		千円 7,765		千円 150,843	
建物	m ² <u>820.44</u> 1,389.00	139,337				6,239	m ² <u>820.44</u> 1,389.00	133,098	
工作物	個 15	19,271				1,526	個 15	17,745	
公有財産 に準ずる もの		30						30	
電話 加入権	1	30					1	30	

借地借家等調

(令和 7 年 2 月 28 日現在)

整理 番号	区分	種 別	所在地	地 目		数量又 は面積	借 料		契 約 期 間	所有者又 は契約者 氏名	用 途
				台帳	現 況		単 価	年 額			
1	土地	児童福祉 施設敷地	磐田市西 貝塚3577 － 1	宅地	学校 敷地	1,017.25		無償	R4.4.1 ～ R7.3.31	静岡県立 磐田学園 長	磐 田 分 校 校 舎 敷地
2	土地	児童福祉 施設敷地	磐田市西 貝塚3577 － 1	宅地	駐車場 敷地	695.00		無償	R4.4.1 ～ R7.3.31	〃	磐 田 分 校 駐 車 場敷地
3	土地	学校敷地	浜松市中 央区住吉 5－16－ 1	宅地	学校 敷地	958.21		無償	R4.4.1 ～ R7.3.31	県立浜松 城北工業 高等学校 長	城 北 分 校 校 舎 敷地
4	土地	学校敷地	浜松市中 央区住吉 5－16－ 1	宅地	倉庫 敷地	5.67		無償	R4.4.1 ～ R7.3.31	〃	城 北 分 校 倉 庫 敷地
5	土地	学校敷地	浜松市中 央区住吉 5－16－ 1	宅地	駐車場 敷地	41.19		無償	R4.4.1 ～ R7.3.31	〃	城 北 分 校 駐 車 場敷地
6	土地	学校敷地	浜松市中 央区住吉 5－16－ 1	宅地	倉庫 敷地	3.64		無償	R4.4.1 ～ R7.3.31	〃	城 北 分 校 倉 庫 敷地
	計					2,720.96		0			
1	建物	事務所建	浜松市中 央区住吉 5－16－ 1	鉄筋コ ンクリ ート造	校舎	131.40		無償	R6.4.1 ～ R7.3.31	県立浜松 城北工業 高等学校 長	城 北 分 校 教 室
	計					131.40		0			

事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調

(令和6年度)
(令和7年2月28日現在)

区分	事業名 又は 契約名	内 容	契約額	(契約額の年度別内訳)								
				H 1 8 年度	H 1 9 年度	H 2 0 年度	H 2 1 年度	H 2 2 年度	H 2 3 年度	H 2 4 年度	H 2 5 年度	H 2 6 年度
債務 負担 行為	仮設校舎 賃貸借契約	仮設校舎 1 棟 (契約日) 平成18年5月2日	円 89, 130, 000	円 24, 150, 000	円 3, 780, 000	円 3, 780, 000	円 3, 780, 000	円 3, 780, 000	円 3, 780, 000	円 3, 780, 000	円 3, 780, 000	円 3, 780, 000
長期 継続 契約	給食調理 (配膳) 業務委託	給食調理 (配膳) 業務 (契約日) 令和2年8月6日	49, 313, 038									
	通学バス 輸送業務 委託	通学バス輸送 業務 (契約日) 平成30年4月1日	177, 341, 596									
	通学バス 輸送業務 委託	通学バス輸送 業務 (契約日) 令和3年4月1日	162, 511, 596									

区分	事業名 又は 契約名	内 容	契約額	(契約額の年度別内訳)								
				H 2 7 年度	H 2 8 年度	H 2 9 年度	H 3 0 年度	H 3 1 年度	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度
長期 継続 契約	債務 負担 行為	仮設校舎 賃貸借契約 平成18年5月2日	円 89,130,000	円 3,780,000	円 3,780,000	円 3,780,000	円 3,888,000	円 3,888,000	円 3,888,000	円 3,888,000	円 3,888,000	円 3,960,000
	給食調理 (配膳) 業務委託	給食調理 (配膳) 業務 (契約日) 令和2年8月6日	49,313,038						10,821,008	16,231,512	16,695,384	5,565,134
	給食調理 (配膳) 業務委託	給食調理 (配膳) 業務 (契約日) 令和5年8月3日	41,316,968									9,176,684
	通学バス 輸送業務 委託	通学バス輸送 業務 (契約日) 平成30年4月1日	177,341,596				57,468,528	59,549,375	60,323,693			
	通学バス 輸送業務 委託	通学バス輸送 業務 (契約日) 令和3年4月1日	162,511,626							59,278,628	51,616,488	51,616,510

区分	事業名 又は 契約名	内 容	契約額	(契約額の年度別内訳)									
				R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度	R 11 年度	R 12 年度	R 13 年度	R 14 年度	
債務 負担 行為	仮設校舎 賃貸借契約	仮設校舎 1 棟 (契約日) 平成18年5月2日	円 89,130,000	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円
	給食調理 (配膳) 業務委託	給食調理 (配膳) 業務 (契約日) 令和2年8月6日	49,313,038										
	給食調理 (配膳) 業務委託	給食調理 (配膳) 業務 (契約日) 令和5年8月3日	41,316,968	13,764,564	13,781,812	4,593,908							
	通学バス 輸送業務 委託	通学バス輸送 業務 (契約日) 平成30年4月1日	177,341,596										
	通学バス 輸送業務 委託	通学バス輸送 業務 (契約日) 令和3年4月1日	162,511,626										
長期 継続 契約	通学バス 輸送業務 委託	通学バス輸送 業務 (契約日) 令和6年4月1日	190,077,800	63,359,208	63,359,208	63,359,384							

行政財産貸付・使用許可調

(令和 7 年 2 月 28 日 現在)

整理 番号	区 分	種 別	所在地	地 目		数量 又は 面積	貸付料又は 使 用 料		貸付又は 使用許可 期間	貸付又は使用 許可を受けた 者の氏名	貸付・ 使用許 可目的
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	学校敷地	浜松市中央区江之島町1266-2	学校敷地	学校敷地	電柱 4本	円 1,500	円 6,000	4.4.1 ～ 9.3.31	中部電力パワーグリッド株式会社浜松支社 配電建設グループ長	電力供給用
2	土地	学校敷地	浜松市中央区江之島町1266-2	学校敷地	学校敷地	支柱 1本	1,500	1,500	5.4.1 ～ 10.3.31	西日本電信電話株式会社静岡支店長	通信供給用
3	土地	学校敷地	浜松市中央区江之島町1266-2	学校敷地	学校敷地	m ² 7.98		免除	6.4.1 ～ 7.3.31	浜松市長	公衆用
土地 小計								7,500			
4	建物	事務所建	浜松市中央区住吉5丁目16-1	重量鉄造	校舎	m ² <u>208.79</u> 208.79		無償	4.4.1 ～ 7.3.31	静岡県立浜松城北工業高等学校長	自動車整備実習室使用
5	建物	事務所建	磐田市西貝塚3577-1	軽量鉄造	校舎	m ² <u>0.06</u> 0.06		無償	5.4.1 ～ 8.3.31	静岡県立磐田学園長	監視カメラ設置
建築 小計								0			
合 計								7,500			

主 要 備 品 調

(令和7年2月28日現在)

整理番号	区 分		品 名 ・ 規 格	利 用 状 況	購 入 年 月	購入金額
	大・中	小				
1	01-13	冷温水器	温水ボイラー	給食調理用 毎日使用（年間193日）	平成29.8	円 2,160,000
2	02-01	パーソナルコンピュータ（一式）	パソコン8台 カラーレーザープリンター1台 他	情報教育用 毎日使用（年間200日）	平成30.3	1,704,564
3	01-13	加熱器具	コンビオープン ACO-102GS	給食調理用 毎日使用（年間193日）	令和2.3	1,570,800
4	02-01	パーソナルコンピュータ（一式）	NAS1台 ノートパソコン6台 他	情報教育用 毎日使用（年間200日）	令和2.1	1,460,932
5	03-03	プロジェクター	プロジェクター	情報教育用 毎日使用（年間200日）	令和3.3	1,402,711
6	01-14	エアコンディショナー	ダイキン SSRH140BB (H) 天吊型 室外機耐重塩害仕様	7月～9月、12月～1月 毎日使用 （年間100日）	平成30.3	1,393,200
7	02-01	パーソナルコンピュータ（一式）	NAS1台 ノートパソコン6台 他	情報教育用 毎日使用（年間200日）	令和2.1	1,381,336
8	01-13	食品食器洗浄機	自動食器洗浄機 W2200×D940×H1125	給食用 毎日使用（年間193日）	平成18.8	1,291,500
9	06-09	その他の木工用機器	軸斜傾線横挽丸鋸盤 鋸軸傾斜角度－1～46℃	木工実習授業用 週2回（年間70日）	平成10.2	1,203,300
10	10-08	その他の芸術用器具	陶芸用窯 プロパンガス用 W1570×D1120×H1450	陶芸授業用 年1回	昭和57.3	1,200,000
11	10-07	鍵盤楽器	ピアノ グランドピアノ	磐田分校授業用 毎日使用（年間200日）	平成11.11	1,183,000
12	10-08	その他の芸術用器具	陶芸用電気窯 三相200V 耐火耐熱レンガ造り 最高使用温度1300℃	陶芸実習授業用 月2回（年間20日）	平成10.12	1,155,000
13	06-09	木工用機械	自動一面かんな盤 削り幅・長さ 400×250以上 刃物寸法 5×32×400以上	木工実習授業用 週2回（年間70日）	平成11.3	1,155,000
14	02-02	放送装置	校内放送設備 Panasonic WL-SA211 他	本校用 毎日使用（年間200日）	令和4.3	1,053,800
15	10-08	その他の芸術用器具	陶芸用窯 プロパンガス用	磐田分校授業用 年1回	昭和63.10	980,000
16	01-14	エアコンディショナー	日立 RPC-AP140VM1	7月～9月、12月～1月 毎日使用 （年間100日）	平成20.7	966,000
17	06-09	その他の木工用機器	集塵機 ムラコシ HM-5000	木工実習授業用 週2回（年間70日）	平成11.3	871,500
18	01-13	その他の厨房器具	三槽シンク 1790*890*880	給食調理用 毎日使用（年間193日）	令和6.3	823,900
19	01-14	エアコンディショナー	日立 RPC-AP140VM1	7月～9月、12月～1月 毎日使用 （年間100日）	平成20.7	819,000
20	01-14	エアコンディショナー	エアーコンディショナー 耐重塩害仕様	7月～9月、12月～1月 毎日使用 （年間100日）	平成28.12	814,320

事務事業及び予算の執行実績（別冊）

（令和6年度分「一部、令和7年度分を含む」）

静岡県立浜松特別支援学校

目 次

職員調	1
職員の年齢調	5
健康管理	6

（令和7年4月1日現在）

整理 番号	職 名	氏 名	事 務 分 担	住 所	勤務年数		摘 要
1	副 校 長	吉澤奈々絵	総括補助	□□□	□ 年	□ 月	□□□□□□
2	教 諭	鈴木 太	高等部	□□□	□	□	□□□□□□
3	教 諭	浜 田 孝 枝	高等部	□□□	□	□	□□□□□□
4	教 諭	足 立 憲 彦	高等部	□□□	□	□	□□□□□□
5	教 諭	五十嵐正広	高等部主事	□□□	□	□	□□□□□□
6	教 諭	尾 関 香	高等部	□□□	□	□	□□□□□□
7	教 諭	高 橋 史 江	高等部	□□□	□	□	□□□□□□
8	教 諭	松 井 智 恵	高等部	□□□	□	□	□□□□□□
9	教 諭	清 水 純 子	高等部	□□□	□	□	□□□□□□
10	教 諭	鈴 木 将 宏	高等部	□□□	□	□	□□□□□□
11	教 諭	植 平 大 介	高等部	□□□	□	□	□□□□□□
12	教 諭	塚 本 勇 気	高等部	□□□	□	□	□□□□□□
13	教 諭	市 川 夢 太	高等部	□□□	□	□	□□□□□□
14	教 諭	石 井 美 奈	高等部	□□□	□	□	□□□□□□
15	教 諭	山 岸 遼 侑	高等部	□□□	□	□	□□□□□□
16	教 諭	村 松 莉 菜	高等部	□□□	□	□	□□□□□□
17	教 諭	北岡なつみ	高等部	□□□	□	□	□□□□□□
18	教 諭	磯 部 春 菜	高等部	□□□	□	□	□□□□□□
19	教 諭	杉 山 周 平	高等部	□□□	□	□	□□□□□□
20	教 諭	根 木 麻 織	高等部	□□□	□	□	□□□□□□
21	教 諭	高橋奈央人	高等部	□□□	□	□	□□□□□□
22	教 諭	富田ひばり	高等部	□□□	□	□	□□□□□□
23	教 諭	岡 本 花 菜	高等部	□□□	□	□	□□□□□□
24	養 護 教 諭	村 松 麻 実	高等部	□□□	□	□	□□□□□□
25	主 任	井上あゆ美	庶務	□□□	□	□	□□□□□□
平均勤務年数					□ 年	□ 月	

城北分校臨時職員

整理 番号	職 名	氏 名	事 務 分 担	住 所	勤務年数		摘 要
1	教 諭（任）	青 田 典 子	高等部	□□□	□ 年	□ 月	□□□□□□
2	教 諭（臨）	石 津 彩 子	高等部	□□□	□	□	□□□□□□
3	養護教諭（臨）	神谷亜紗子	養護	□□□	□	□	□□□□□□
4	会計年度任用職員 （非常勤労務職員）	鈴 木 由 紀	用務	□□□	□	□	□□□□□□
5	学 校 医	鈴 木 保 孝	内科・健康管理医	□□□	□	□	□□□□□□
6	学 校 医	畠 山 眞 行	眼科	□□□	□	□	□□□□□□
7	学 校 医	鳥 居 智 子	耳鼻科	□□□	□	□	□□□□□□
8	学 校 医	大 嶋 正 浩	精神科	□□□	□	□	□□□□□□
9	学 校 医	小 澤 仁	歯科	□□□	□	□	□□□□□□
10	薬 剤 師	澤田由紀子	学校薬剤師	□□□	□	□	□□□□□□

本校臨時職員

整理 番号	職 名	氏 名	事 務 分 担	住 所	勤務年数		摘 要
1	教 諭 (臨)	野 末 光 希	小 学 部	□□□	□	□	□□□□□□
2	教 諭 (任)	浅 村 多 希	小 学 部	□□□	□	□	□□□□□□
3	教 諭 (任)	鈴 木 愛 乃	小 学 部	□□□	□	□	□□□□□□
4	教 諭 (臨)	藤 田 洸 平	高 等 部	□□□	□	□	□□□□□□
5	教 諭 (任)	村 松 大 輔	小 学 部	□□□	□	□	□□□□□□
6	教 諭 (任)	小 林 良 章	小 学 部	□□□	□	□	□□□□□□
7	教 諭 (臨)	加 藤 誠 美	中 学 部	□□□	□	□	□□□□□□
8	教 諭 (臨)	稲 垣 京 華	小 学 部	□□□	□	□	□□□□□□
9	教 諭 (任)	清 水 誠 志	中 学 部	□□□	□	□	□□□□□□
10	教 諭 (任)	田 邊 綾 乃	小 学 部	□□□	□	□	□□□□□□
11	教 諭 (任)	高 橋 恭 子	中 学 部	□□□	□	□	□□□□□□
12	教 諭 (臨)	加 藤 輝	高 等 部	□□□	□	□	□□□□□□
13	教 諭 (臨)	若 山 美 奈 子	小 学 部	□□□	□	□	□□□□□□
14	教 諭 (臨)	村 松 佑 哉	中 学 部	□□□	□	□	□□□□□□
15	教 諭 (臨)	植 山 開	中 学 部	□□□	□	□	□□□□□□
16	教 諭 (臨)	山 下 数 真	高 等 部	□□□	□	□	□□□□□□
17	教 諭 (臨)	杉 山 貴 之	小 学 部	□□□	□	□	□□□□□□
18	教 諭 (臨)	山 本 久 美 子	高 等 部	□□□	□	□	□□□□□□
19	栄養教諭(臨)	棚 田 菜 名 子	中 学 部	□□□	□	□	□□□□□□
20	任期付短時間勤務教職員	名 倉 小 織	小 学 部	□□□	□	□	□□□□□□
21	会計年度任用職員(非常勤労務職員)	岡 田 智 美	用 務	□□□	□	□	□□□□□□
22	会計年度任用職員(非常勤労務職員)	幸 地 洋 子	スクールバス介助	□□□	□	□	□□□□□□
23	会計年度任用職員(非常勤労務職員)	鈴 木 敏 幸	スクールバス介助	□□□	□	□	□□□□□□
24	会計年度任用職員(非常勤労務職員)	池 田 恵 子	スクールバス介助	□□□	□	□	□□□□□□
25	会計年度任用職員(非常勤労務職員)	鈴 木 恵 子	スクールバス介助	□□□	□	□	□□□□□□
26	会計年度任用職員(非常勤嘱託員)	山 本 修 司	指 導 員	□□□	□	□	□□□□□□
27	会計年度任用職員(非常勤嘱託員)	高 氏 菊 巳	実習支援員	□□□	□	□	□□□□□□
28	会計年度任用職員(非常勤嘱託員)	百々路昭子	実習支援員	□□□	□	□	□□□□□□
29	会計年度任用職員(非常勤嘱託員)	比 屋 根 茂 子	事 務 員	□□□	□	□	□□□□□□
30	会計年度任用職員(スクールカウンセラー)	高 木 紀 子	ス ク ー ル カ ウ ン セ ラ ー	□□□	□	□	□□□□□□
31	学 校 医	次 木 稔	内 科	□□□	□	□	□□□□□□
32	学 校 医	朝 岡 真	眼 科	□□□	□	□	□□□□□□
33	学 校 医	藤 森 俊 也	耳 鼻 科	□□□	□	□	□□□□□□
34	学 校 医	大 嶋 正 浩	精 神 科	□□□	□	□	□□□□□□
35	学 校 医	鈴 木 一	歯 科	□□□	□	□	□□□□□□
36	学 校 医	牛 田 健 二 郎	歯 科	□□□	□	□	□□□□□□
37	薬 剤 師	永 島 崇 志	学 校 薬 剤 師	□□□	□	□	□□□□□□
38	健 康 管 理 医	鈴 木 保 孝	健 康 管 理 医	□□□	□	□	□□□□□□

職 員 調（磐田分校）

（令和7年4月1日現在）

整理 番号	職 名	氏 名	事 務 分 担	住 所	勤務年数		摘 要		
1	副 校 長	小澤 真由美	総括補助	□□□	□ 年	□ 月	□□□□□□		
2	教 諭	湯 本 範 子	中学部	□□□	□	□	□□□□□□		
3	教 諭	池 野 明 弘	中学部	□□□	□	□	□□□□□□		
4	教 諭	國 松 美 穂	中学部	□□□	□	□	□□□□□□		
5	教 諭	浅 原 加 奈	小学部	□□□	□	□	□□□□□□		
6	教 諭	安 達 唯 見	小学部	□□□	□	□	□□□□□□		
7	教 諭	森 高 通	小学部	□□□	□	□	□□□□□□		
8	教 諭	堀 内 雅 子	小学部	□□□	□	□	□□□□□□		
9	教 諭	中川悠真子	中学部	□□□	□	□	□□□□□□		
10	教 諭	加 藤 有 紀	小学部	□□□	□	□	□□□□□□		
11	教 諭	横 石 真 愛	小学部	□□□	□	□	□□□□□□		
12	教 諭	青 木 邦 成	中学部	□□□	□	□	□□□□□□		
13	教 諭	剣 持 香 澄	中学部	□□□	□	□	□□□□□□		
14	教 諭	小久保 鮎美	中学部	□□□	□	□	□□□□□□		
15	教 諭	鈴 木 梨 奈	小学部	□□□	□	□	□□□□□□		
16	教 諭	片 田 達 也	中学部	□□□	□	□	□□□□□□		
17	教 諭	和 田 隼 輝	小学部	□□□	□	□	□□□□□□		
18	教 諭	玉 城 康 平	中学部	□□□	□	□	□□□□□□		
19	教 諭	太 田 大 貴	小学部	□□□	□	□	□□□□□□		
20	養 護 教 諭	上 村 亜 紀 子	養護	□□□	□	□	□□□□□□		
21	主 事	伊 藤 尚 成	会計	□□□	□	□	□□□□□□		
平均勤務年数					□ 年	□ 月			

磐田分校臨時職員

整理 番号	職 名	氏 名	事 務 分 担	住 所	勤務年数		摘 要		
1	教 諭（任）	岩 崎 智 子	小学部	□□□	□ 年	□ 月	□□□□□□		
2	教 諭（臨）	鈴 木 里 美	小学部	□□□	□	□	□□□□□□		
3	教 諭（臨）	廣瀬 亜理沙	中学部	□□□	□	□	□□□□□□		
4	会計年度任用職員 （非常勤労務職員）	小 野 美 香	用務	□□□	□	□	□□□□□□		
5	学 校 医	木佐森 正 樹	内科	□□□	□	□	□□□□□□		
6	学 校 医	大石 恵理子	眼科	□□□	□	□	□□□□□□		
7	学 校 医	梅 原 潤 一	耳鼻科	□□□	□	□	□□□□□□		
8	学 校 医	山 名 純 一	精神科	□□□	□	□	□□□□□□		
9	学 校 医	吉 田 充	歯科	□□□	□	□	□□□□□□		
10	薬 剤 師	青 野 由 三	学校薬剤師	□□□	□	□	□□□□□□		
11	健 康 管 理 医	鈴 木 大 介	健康管理医	□□□	□	□	□□□□□□		

（令和7年4月1日現在）

整理 番号	職 名	氏 名	事 務 分 担	住 所	勤務年数		摘 要
1	副 校 長	吉澤奈々絵	総括補助	□□□	□ 年	□ 月	□□□□□□
2	教 諭	鈴木 太	高等部	□□□	□	□	□□□□□□
3	教 諭	浜 田 孝 枝	高等部	□□□	□	□	□□□□□□
4	教 諭	足 立 憲 彦	高等部	□□□	□	□	□□□□□□
5	教 諭	五十嵐正広	高等部主事	□□□	□	□	□□□□□□
6	教 諭	尾 関 香	高等部	□□□	□	□	□□□□□□
7	教 諭	高 橋 史 江	高等部	□□□	□	□	□□□□□□
8	教 諭	松 井 智 恵	高等部	□□□	□	□	□□□□□□
9	教 諭	清 水 純 子	高等部	□□□	□	□	□□□□□□
10	教 諭	鈴 木 将 宏	高等部	□□□	□	□	□□□□□□
11	教 諭	植 平 大 介	高等部	□□□	□	□	□□□□□□
12	教 諭	塚 本 勇 気	高等部	□□□	□	□	□□□□□□
13	教 諭	市 川 夢 太	高等部	□□□	□	□	□□□□□□
14	教 諭	石 井 美 奈	高等部	□□□	□	□	□□□□□□
15	教 諭	山 岸 遼 侑	高等部	□□□	□	□	□□□□□□
16	教 諭	村 松 莉 菜	高等部	□□□	□	□	□□□□□□
17	教 諭	北岡なつみ	高等部	□□□	□	□	□□□□□□
18	教 諭	磯 部 春 菜	高等部	□□□	□	□	□□□□□□
19	教 諭	杉 山 周 平	高等部	□□□	□	□	□□□□□□
20	教 諭	根 木 麻 織	高等部	□□□	□	□	□□□□□□
21	教 諭	高橋奈央人	高等部	□□□	□	□	□□□□□□
22	教 諭	富田ひばり	高等部	□□□	□	□	□□□□□□
23	教 諭	岡 本 花 菜	高等部	□□□	□	□	□□□□□□
24	養 護 教 諭	村 松 麻 実	高等部	□□□	□	□	□□□□□□
25	主 任	井上あゆ美	庶務	□□□	□	□	□□□□□□
平均勤務年数					□ 年	□ 月	

城北分校臨時職員

整理 番号	職 名	氏 名	事 務 分 担	住 所	勤務年数		摘 要
1	教 諭（任）	青 田 典 子	高等部	□□□	□ 年	□ 月	□□□□□□
2	教 諭（臨）	石 津 彩 子	高等部	□□□	□	□	□□□□□□
3	養護教諭（臨）	神谷亜紗子	養護	□□□	□	□	□□□□□□
4	会計年度任用職員 （非常勤労務職員）	鈴 木 由 紀	用務	□□□	□	□	□□□□□□
5	学 校 医	鈴 木 保 孝	内科・健康管理医	□□□	□	□	□□□□□□
6	学 校 医	畠 山 眞 行	眼科	□□□	□	□	□□□□□□
7	学 校 医	鳥 居 智 子	耳鼻科	□□□	□	□	□□□□□□
8	学 校 医	大 嶋 正 浩	精神科	□□□	□	□	□□□□□□
9	学 校 医	小 澤 仁	歯科	□□□	□	□	□□□□□□
10	薬 剤 師	澤田由紀子	学校薬剤師	□□□	□	□	□□□□□□

職員の年齢調

(令和7年4月1日現在)

年 齢	人 員				摘 要
	本 校	磐田分校	城北分校	全 体	
20歳未満	人 0	人 0	人 0	人 0	
20歳以上30歳未満	25	1	3	29	
30歳以上40歳未満	45	10	9	64	
40歳以上50歳未満	31	5	8	44	
50歳以上56歳未満	15	3	4	22	
56歳以上61歳未満	13	2	1	16	
61歳以上	0	0	0	0	
計	129	21	25	175	
平均年齢	39.2	41.1	39.6	39.5	

健康 管理 （ 本 校 ）

1 6 年度受診状況

区 分	内 容
受 診 状 況	受診者数 121 人 職 員 数 124 人
受 診 率	100 %
県平均受診率	100 %

(1) 未受診の理由

3 人 産休・育休・休職

(注) 1 前年度末日現在在籍している職員について記載する。

2 受診率算定に当たっては、休職・特休中、育休・産休・妊娠中、治療中及び海外派遣中等の職員は、算定の対象から除く。

2 7 年度在籍者の健康管理区分結果

健 康 管 理 区 分			人 数
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		人
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要 治 療	人
B 2		要経過観察	人
C 1	勤務をほぼ平常に行ってよいが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要 治 療	1(1) 人
C 2		要経過観察	人
D 1	平常の勤務でよい。	要 治 療	22 (22) 人
D 2		要経過観察	18 (18) 人
D 3		医 療 不 要	77 (77) 人
区 分 者 計			118 (118) 人
未区分者数			11 (11) 人
合 計			129 (129) 人

(1) 管理区分 A ～ C 2 該当者
に対する措置状況
過度な時間外や休日勤務
を制限している

(2) 未区分の理由

ア ☐☐☐☐☐ 人
イ ☐☐☐☐☐ 人
ウ ☐☐☐☐☐ 人
エ ☐☐☐☐☐
() 人

(注) 1 健康管理区分結果は、調書調製日現在在籍している職員（様式第 2 号－2 の記載対象者と同じ。）について記載する。

2 本年度の健康管理区分結果が出ていない職員については、前年度の結果を記載し、() 書きで再掲する。

3 前年度に市町等へ派遣されていた職員等は、派遣先等の健康診断結果等に基づき、該当箇所に記載する。

4 本様式は別冊とする。

5 警察署は、「D 3」と「区分者計」の間に「区分なし」を追加して記載する。

健康 管理（磐田分校）

1 6 年度受診状況

区 分	内 容
受 診 状 況	受診者数 21 人 職員数 22 人
受 診 率	100 %
県平均受診率	100 %

(1) 未受診の理由

1 人 育休

(注) 1 前年度末日現在在籍している職員について記載する。

2 受診率算定に当たっては、休職・特休中、育休・産休・妊娠中、治療中及び海外派遣中等の職員は、算定の対象から除く。

2 7 年度在籍者の健康管理区分結果

健 康 管 理 区 分			人 数
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		人
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要 治 療	人
B 2		要経過観察	人
C 1	勤務をほぼ平常に行ってよいが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要 治 療	人
C 2		要経過観察	人
D 1	平常の勤務でよい。	要 治 療	1 (1) 人
D 2		要経過観察	8 (8) 人
D 3		医 療 不 要	11 (11) 人
区 分 者 計			20 (20) 人
未区分者数			1 (1) 人
合 計			21 (21) 人

(1) 管理区分 A～C 2 該当者に対する措置状況

(2) 未区分の理由

ア ☐☐☐☐☐ ☐人
 イ ☐☐☐☐☐ ☐人
 ウ ☐☐☐☐☐ ☐人
 エ ☐☐☐☐☐
 () 人

(注) 1 健康管理区分結果は、調査調製日現在在籍している職員（様式第 2 号－2 の記載対象者と同じ。）について記載する。

2 本年度の健康管理区分結果が出ていない職員については、前年度の結果を記載し、() 書きで再掲する。

3 前年度に市町等へ派遣されていた職員等は、派遣先等の健康診断結果等に基づき、該当箇所に記載する。

4 本様式は別冊とする。

5 警察署は、「D 3」と「区分者計」の間に「区分なし」を追加して記載する。

健康管理（城北分校）

1 6 年度受診状況

区 分	内 容
受 診 状 況	受診者数 21 人
	職 員 数 22 人
受 診 率	100 %
県平均受診率	100 %

(1) 未受診の理由
産休・育休 1 人

(注) 1 前年度末日現在在籍している職員について記載する。

2 受診率算定に当たっては、休職・特休中、育休・産休・妊娠中、治療中及び海外派遣中等の職員は、算定の対象から除く。

2 7 年度在籍者の健康管理区分結果

健 康 管 理 区 分			人 数
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		人
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要 治 療	人
B 2		要経過観察	人
C 1	勤務をほぼ平常に行ってよいが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要 治 療	人
C 2		要経過観察	人
D 1	平常の勤務でよい。	要 治 療	4 (4) 人
D 2		要経過観察	7 (7) 人
D 3		医 療 不 要	12 (12) 人
区 分 者 計			23 (23) 人
未 区 分 者 数			2 (2) 人
合 計			25 (25) 人

(1) 管理区分 A～C 2 該当者
に対する措置状況

(2) 未区分の理由

ア ☐☐☐☐☐ ☐人
イ ☐☐☐☐☐ ☐人
ウ ☐☐☐☐☐ ☐人
エ ☐☐☐☐☐
() 人

(注) 1 健康管理区分結果は、調書調製日現在在籍している職員（様式第 2 号－2 の記載対象者と同じ。）について記載する。

2 本年度の健康管理区分結果が出ていない職員については、前年度の結果を記載し、() 書きで再掲する。

3 前年度に市町等へ派遣されていた職員等は、派遣先等の健康診断結果等に基づき、該当箇所に記載する。

4 本様式は別冊とする。

5 警察署は、「D 3」と「区分者計」の間に「区分なし」を追加して記載する。